

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2001年6月25日発行

# 露宿

第13号  
rojuku



定価500円

## 露宿

## 目次

表紙写真	高松 英昭	
文中写真	岡田 知子	
路上の初夏	富士森 和行	2
紙縫締	Y	3
暗い雨	清翠	4
五行詩	近松 雅之	
山谷の野郎ども	秋戸 空	5
生きるために、日々闘っている皆さんへ	谷口 悟	6
旗	三手 板蔵	
目的	悔悟	7
野宿者をたずねて	宗春	8
ありんこのはなし	吉岡 信	9
俳句	熙 桜子	
無題	仲間たち	
色紙	野ら人	10
朝太郎の箱船	鈴木 克彦	11
見てきた野宿	橋 安純	13
路上に立て	五林 修	14
酔生夢死	禿黄耳	15
赤い浜辺	井上 林太郎	16
宿無しの散歩道	中津川 あゆみ	17
恒例の新宿夏祭りが近づく	風来坊	19
「エロスの廃園」より	望月 大成	20
ダイヤモンドのカケラ	只野 酔払	22
垣根の恋人たち 他	弓削 鴻介	26
精神障害者とホームレス	須藤 守	27
湊町より	高橋 美香	29
東京路上ふらり散歩	笠井 和明	30
	岡田 知子	
露宿の本棚	末永 カヲル	35
読者のページ		36
はり師いが丸の肝心かなめ	はり師いが丸	37
編集後記		38

路上の初夏 八首 富士森和行

這へば立て立てば歩めと育ぐくみし絆はいづこ世は改まる

「母の日」の献げものとし委らるホームレスらの願ひわが掌に篤きづなし  
樟脳しょうのうの匂ひなつかしその昔の式典に臨のぞみしわが一張羅

両国の風既に夏爽やかに初日の懶ゆすりてゆきぬ

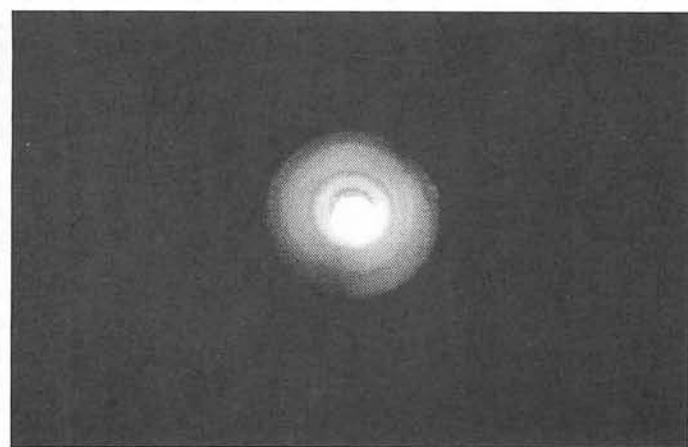
架けられし運河の「動く歩道」あり路上追われし處もあるに  
(5・3晴海トリトンスケアにて)

矢の如き光陰にたゞ老いつゝも本懐となすこと言ひ得ずにおり

マロニエの紅き梢より滴うれりてひと日梅雨思わせて降る

歳月の巡りに任せ展ひらけゆく路上の想ひそれぞれ育ち

「露宿」2周年に思ふ(5・12自宅にて)



# こよりじめ 紙縫縫

Y

その愛らしき姿、幼き日々の君に似て  
居るだろう。

初孫に逢いたきや、街に出よ。

電話でもよい。只一言、祖父だよ、と。

そんなにも老いたかな？その君、

そんなにも過ぎたかな？その自分の一  
世紀。

毎年、同じ季節はやつて来る。

が、然るに、じめじめとしめた暑い

夏であればよい。この八月。

藍よりも薄い青と、暗く重たい雨雲と

の傍に聳える積乱の白光。

君の祖父は第二次大戦に皇命を没し、  
そして自分の祖父は激戦を前に洋上に皇  
命を没し、

近寄れる一年は靖国の大塔。

若くして初孫の手に手を引く君よ、

あの夏と同じにお元気で……、

かぐやを乗せたる籠船の

引き運ぶかは兎かな

夏の夜の赤黃に輝いる満ちた月

かぐやを乗せたる籠船の

引き運ぶかは兎かな

今年、君の肩に付いた新たなことば、

"祖母"

かかるに、自分の肩書きにも"祖父"と、

なつてしまつた。

初孫

拜啓、親愛なる君よ、  
お元氣で居るのでしようか。  
君の祖母との電話によると  
"耳が遠く成りました。  
君が家に帰つて来た日に伝えときます。  
……"と、

た。  
仕事への出先からの短い電話、そして  
その日は日曜日。

てつきり、まだ君は寝て居るものと思  
つてダイヤルを回し、掛けた一本の電話。

けれど君はもう家には居らず、ほんの

一瞬刹那的に君への心配が過つた。

その約一ヶ月の後、思いも寄らぬ町名  
の書かれた地からの君の便りであつた。  
それを手に恐る、封を切ると、  
"就職後の初給料は、鳥の羽でも付いた

今年、君の肩に付いた新たなことば、  
"祖母"  
かかるに、自分の肩書きにも"祖父"と、  
なつてしまつた。

初孫

丹沢から谷川岳へ  
谷川岳からヒマラヤへ  
野営活る

## 暗い雨 清翠

夜半が過ぎても、雨が、ビニールテントの上に音をたてて降りつづけている。雨の音が、うるさくて、なかなかねつかれず、入口から外を見ていた。すごい雨だ、外灯がくもり、ねている。足元が、雨のためぬれだしてきただ。テントのすきまから雨が中に入つて、ダンボールが、水がすいこんで、ベタベタと、汚れだした。

汚れをかくごの上に、雨にぬれながら、外にでて、もう一つのビニールテントを、ひろげ、まわりをしつかりとくるんで、新しいダンボールで、ねやすいようになおした。

布団のすその方は、しつかりと水をすいこんでしまい、それを、横へよけて、ねようとおもい、何んとなく、大きな木の根本の土がひっこんだところに目が、いった。

そこには、だいぶ大きな水たまりが、できいて、どこからきたのか、数ひきの小さな青ガエルが、どんだり、はねたり、俺の方を見ているよ

うに遊んでいた。  
俺はおもつた。

俺はいつたい何をしているのだろう。

悲しみの中に生き、  
苦しみの中に生き、  
俺はおもつた。

夜半が過ぎても、雨が、ビニールテントの上に音をたてて降りつづけている。

とう、いやな事が、走馬灯のように頭にうかぶ。

そして消えていく。

俺は、その力エルが、いつしか俺自身に見えてきた。

大きな人生という池で踊っているのか、踊らされているのか、力エル達は俺を見てよろこんでいるのだとおもうと、俺は、何んだか、人生も、心も、いかれってきたようだ。

世の中には、俺以上に、ふくぎつな、心で生きている人達が、いつぱいいることを、わすれてはいなけれど、心で考えても前に進むことが、これからはあるかも知れないが無いかも知れない。

テントのすきまから雨が中に入つて、ダンボールが、水がすいこんで、ベタベタと、汚れだした。

か、踊らされているのか、力エル達は俺を見てよろこんでいるのだとおもうと、俺は、何んだか、人生も、心も、いかれてきたようだ。

汚れをかくごの上に、雨にぬれながら、外にでて、もう一つのビニールテントを、ひろげ、まわりをしつかりとくるんで、新しいダンボールで、ねやすいようになおした。

布団のすその方は、しつかりと水をすいこんでしまい、それを、横へよけて、ねようとおもい、何んとなく、大きな木の根本の土がひっこんだところに目が、いった。

そこには、だいぶ大きな水たまりが、できいて、どこからきたのか、数ひきの小さな青ガエルが、どんだり、はねたり、俺の方を見ているよ

完

## 五行詩 — 近松 雅之

存在理由

意味が無いことに  
意味はなく  
かといつて  
必要かといえば  
そうでもない

戦い

人生の目的

もう駄目かと  
諦めかけた時から

眞の戦いが始まる  
平気な振りをして  
命を賭ける

持病

地球炎上

「痩せたね」  
会うたび  
言われる

欲望の油が流出し  
憎悪が海に点火した  
炎を鎮めるには

持病の  
恋煩いのせい

あまりに無力で  
油を止める術もない

命と  
人生  
安売りは  
できない

現品限りの  
命と  
人生  
安売りは  
できない

自由

現品

自由が欲しくて  
屋上から  
飛び降りたつて

現品限りの  
命と  
人生  
安売りは  
できない

保険金は  
出ないぜ

現品限りの  
命と  
人生  
安売りは  
できない

会いたい  
あなたに会いたい  
あなたに会いたい  
あなたに会いたい  
あなたに会いたい

現品限りの  
命と  
人生  
安売りは  
できない

発火

現品限りの  
命と  
人生  
安売りは  
できない

会いたい  
会いたい  
会いたい  
会いたい  
会いたい

現品限りの  
命と  
人生  
安売りは  
できない

あなたに会いたい  
あなたに会いたい  
あなたに会いたい  
あなたに会いたい  
あなたに会いたい

現品限りの  
命と  
人生  
安売りは  
できない

会いたい  
会いたい  
会いたい  
会いたい  
会いたい

現品限りの  
命と  
人生  
安売りは  
できない

最悪な経験でも  
「失敗」は  
存在しない

存在しない失敗

存在しない失敗

現品限りの  
命と  
人生  
安売りは  
できない

山谷の野郎どもは

皆な醉つていた

ヤンカラで酔つぱらつていた

醉つぱらうために野郎どもは

世界に行つてせい大に

酔つぱらつていた

アミをはつてカモを待つ世界

ある日、世界が生き消された

みたいに消えた山谷の野郎どもの

たまり場、口論場、集会場でもあつた

突然：日本堤何丁目だとよ！

くだらん！

山谷という名称も無くされてしまった  
まったく〈ヤクザ〉な行政の連中め！  
俺たち路上で生きていても  
ドヤでくらしていても  
寒質的に今だつて  
山谷は山谷なのだ！

山谷といふされてしまつた  
神さまのサロンみたいに：

俺たちの集会場みたいだつたのに…  
神さまと言われたヤツがやつて来て  
「おい、お前らわしが来るのを  
わしのことを忘れているな…  
おれ様の地獄え

連れていくぞ：お前たち

…って言つたらしい

皆な聞く耳は持つてるけど

そんなオチャラケ聞こえはしねえ！

ここは山谷なんだぞ、バーロー

…てな気分だ！

ヤマ  
山谷の野郎ども

01  
・5月5日

秋戸 空

皆な、世界に集つまつて

口論し、ケンカもしたけど

（正直言つて血を流した

こともあつたけど…）

けつこう作り出したつけ

〈世間〉では暴動とか言つていた

何つてこつた!!

山谷はワイワイ、ガヤガヤ

にぎやかだつたな

そりやあ良くも悪くも…さ

見すではしないのだ！

孤立した仲間だつて

俺たちやさしさを持つて

見すではしないのだ！

醉つぱらつておぼつかない

足どりで歩いてる仲間

俺たち、どなり付け怒つても

見すではしない！

路上生活者魂つてもんだ！

孤立した仲間だつて

神さまのサロンみたいに：

俺たちの集会場みたいだつたのに…

神さまと言われたヤツがやつて来て

「おい、お前らわしが来るのを

わしのことを忘れているな…

おれ様の地獄え

連れていくぞ：お前たち

…って言つたらしい

皆な聞く耳は持つてるけど

そんなオチャラケ聞こえはしねえ！

ここは山谷なんだぞ、バーロー

…てな気分だ！

居丈高しのマンモスのボリ公

こいつらは〈国家組暴力団〉

何とも言わづ棍棒の好きな

〈合法的な暴力団〉だ！

警察は〈軽礼〉ともいう

國家の〈金庫番人隊〉のことだ！

忘れてはいらない〈行政権力〉

肝心なことをしゃべらさないために

世界を無くしたつてのか？

それで山谷を酒づけにしとくために

〈自動販売機〉をあちこちに置いたのか？

〈国家権力〉＝〈行政権力〉のバカヤロめ！

俺たちは、世界（集会場）を

心の中に持つてゐるんだ！…いつも

見すではしない！

醉つぱらつておぼつかない

足どりで歩いてる仲間

俺たち、どなり付け怒つても

見すではしない！

路上生活者魂つてもんだ！

孤立した仲間だつて

神さまのサロンみたいに：

俺たちの集会場みたいだつたのに…

神さまと言われたヤツがやつて来て

「おい、お前らわしが来るのを

わしのことを忘れているな…

おれ様の地獄え

連れていくぞ：お前たち

…って言つたらしい

皆な聞く耳は持つてるけど

そんなオチャラケ聞こえはしねえ！

ここは山谷なんだぞ、バーロー

…てな気分だ！

路上で生きざるを得ない

俺たちを…

年中いじめてうれしがつてゐるのに：

俺たちをちがう人種のよう見ている

マンモスのボリ公たち

世界は無くされたけど  
何処だ？やたらと  
〈自動販売機〉がふえたな  
〈自動販売機〉の街になつたみたいだ！  
山谷を酒づけにしとくことを

## 生きるために、日々闘っている皆さんへ

谷口 恵

旗

三手板蔵

桜もあつと言う間に散り急ぎ、自然界の凡ゆる生命が芽吹く季節になりました。皆さんは厳しい冬を乗り越え、ホッとひと息ついていることでしょう。そんな皆さんが生きて行く上で最大の難関はやはり「冬」と言う名の非情極まる強敵との戦いにあると言つても過言ではありません。それだけに今を迎えたことは大きなよろこびだと思います。それを思う時、自ら望んだわけではないにしても国家権力の傘の下で、この冬を安易に越してしまったことは恥じと皆さんに詫びなくてはなりません。たとえ、どのようない理由があるうと（飢えを満たす為の手段であろうと）人様の金品に手をかけることは許されないことです。自分さえ良ければと言う、醜いばかりのエゴ丸出し、かつ浅はかな了見で行動した結果が囚われの身、ということでした。この事実は皆さんからどのように批判され罵倒されても当然の所業です。その全てを受け止め、総括し、自己批判しなくてはなりません。これから先を「強く生きぬく為」にも…。そう誓う私も一時は路上生活も止むなしと思いつめたことがあります。でも決断できませんでした。プライドなどと言う、高尚なものはもともとあります。路上生活で果たして生きて行け

るのか不安だけが先走つて、とうとうふみ込めなかつたのです。今その事實を思ひおこしてみる時、これは偏見であり身と息ついていることでしょう。そんな皆さんが生きて行く上で最大の難関はやはり「冬」という名の非情極まる強敵との戦いにあると言つても過言ではありません。それだけに今を迎えたことは大きなよろこびだと思います。それを思う時、自ら望んだわけではないにしても国家権力の傘の下で、この冬を安易に越してしまったことは恥じと皆さんに詫びなくてはなりません。たとえ、どのようない理由があるうと（飢えを満たす為の手段であろうと）人様の金品に手をかけることは許されないことです。自分さえ良ければと言う、醜いばかりのエゴ丸出し、かつ浅はかな了見で行動した結果が囚われの身、ということでした。この事実は皆さんからどのように批判され罵倒されても当然の所業です。その全てを受け止め、総括し、自己批判しなくてはなりません。これから先を「強く生きぬく為」にも…。そう誓う私も一時は路上生活も止むなしと思いつめたことがあります。でも決断できませんでした。プライドなどと言う、高尚なものはもともとあります。路上生活で果たして生きて行け

笠井様。「露宿」に出会えたこと、その内容に触発されたことから、とうとうこのように投稿するに至つてしましました。拙文でお恥ずかしい限りですが、もしよかつたら仲間に入れて下さい。「生きる」ということ、もつと真剣に考える必要があることを教えられました。まだまだ精神的にも甘い部分があることも思い知られました。これまでの人生の半を無駄に過ごしてきたこと、本当に情けなくただ赤面するだけです。こんな私ですが、これからも良きアドバイスを、と勝手に願いするしいです。では、今日はこれにて失礼致します。

2001・5・8

旗には人間の魂がこめられている。団結のシンボルだ。旗のない闇いは唯の烏合の勢。団結としての意志がない。旗は常に団の先頭で威風堂々、厳然とその姿を誇示してこそ眞の力を發揮する。旗は人間の歴史を積み重ねてきた。

侮蔑と屈辱にまみれている日々ではあるが心の中にはいつも前進のイメージを持ち続けたい。奪われた権利をとりもどすのだ。団結こそがすべてを動かす。そして旗。感動とイメージのない处からは何も生まれてはこない。

# 目的

## 悔悟

目的 とわ何か。

難ずかしく考えず自分が今出来る事を 精一杯やつて見る事でないだろうか。

どうせ仕事をさがしていくても年だから どこもやとつてわ呉れないだからと言って 頭から仕事をさがす気持ちが なかつたら遠ざかってしまう

そうで無くとも無いのである。無駄とわ思つても 無駄な鉄砲数射てば当ると云う事もある。それわ仕事に対しても生活の取り戻しの策でもあるのでわないか。

小生の廻りにも、一杯仕事の事で悩み相談に来る方々が一杯いる。ある会社で北陸又わ中越長野方面に三ヶ月という長期で今月六名も行つた。まず生活と云う毎日を出来る目標を作り、今迄の生活から宿命の転換を計つている訳なのである。明るい毎日を自分で見つけなければ 他人など當てにならない。自分には仕事わ まだ出来ると云う頑張りと目的と言う肚を決める事が一番。

気候が良く成ったと言つて昼間 ぶらぶらしていたのでわ仕事の方が逃げて行く。何の目的や 欲を持たず 誰か喰はして呉れるとか自分に甘えている人が多すぎると想い今の社会は、自分との戦いである。目的や目標も考えず、大きな荷を持って一日を過してしまるのは 生活への目的や欲が無いからだと思う。

人は、一人では生きて行くのは、大変です。

しかし自分がやらずに誰がやる。人は話しわするだろう。人の話しに耳をかさない者は 自分自身を孤立させている人だと思う。世間が何だ。自分は自分でわ無いのか、連絡会の炊き出しに来ている人を見ると喰べたり葉子など袋一杯に持つて行く、そんぐらに思つて居る。炊き出しをされている人達の苦労など此の人達には、本当に感謝しているのだろ

うか小生は たまにしかお手伝いも出来ないが行くたびに感じる。腹が減つたからと三ツも四ツも喰べられるのかそんな欲は自分自身の毎日の生活に置き替えて世間や自分と、自分自身と戦うべきでは無いのか。

露宿に何回か投稿させて頂き画も載せてもらい有難度く感謝していますが、十二号の露宿に投稿なさつていた方で「雑草」と言うネームで色々自身の事を書かれていましたが、読んでる中で感泣致しました。人間は偉な時とか空しい事とか一杯あるでせう。人生はほんとうに大変です。しかし目的とそれを進める目標が無かつたら ただの人では無いかと思う。私ももう通院生活で二年以上に成ります。負けわしません。病いは氣からと人は云う。自分も自身を戦いの中に精一杯頑張る。

明るく元氣で過ごせる毎日は人は作つては呉れない。自分で精一杯頑張つて造らなければ人は無情なのです 連絡会の方々の頑張り、そしてボランティアで手伝つて裁ける方々ほんとう感謝しなければ 道楽でやつてゐる訳では無いのですから此れからも毒のある事を書き続けると思ひます。今後共露宿と共々頑張つて行く覚悟です。読みにくい点は編集室の方々によろしくお願ひ申し上げます。



# 野宿者をたずねて

宗春

二十一世紀が始まても我が国の景気は良くない。長引く不況の中で野宿者、失業者が増えている。

年代別で言えば、六十年代や七十年代の仲間が多い。

いかがでしょうか？

私はひとりの老者にお逢いして色々な話をしましたが、その仲間の言うことは、「仕事があつたら最低の生活が出来るだろうと思うが俺みたいな年を取つたらどこも使ってもらえないじゃ」と淋しげな表情でつぶやきました。「若い時は何でも出来たんじゃ」

又、ある仲間は「今の世の中どうなつちゃたんだ」と、目もうつろで語つてくれました。「役所のカンパンと水だけじゃ生きて行けんからう」と、やるせないという仲間も居ました。

いずれにせよ、不況の長期化に高齢者が追い詰められているのが現状です。

従つて色々な面で考えていくことが必要であると考えます。

日本の国の福祉は外の国に比較すれば遅れている。それは確かだ。

今まで、日本のために自分のために、又家族のために働いて来た高齢者の、これから生き甲斐という問題を考えなければなりません。

唯、いたずらにこの都会の中にあふれさせるホームレス。色々な課題を行政の力で変えて行くことが可能な時代であつてほしい。

悲劇が起る前に手を打つことだと思います。

色々な仲間とお話しをした私ですが、皆同じようなことばかりで、働ける体でいる限り働きたいとつぶやくのでした。

\*カンパのお礼

前号で散髪道具カンパの広告を出した所、心ある方々からカンパを戴きました。高速道具を購入して仲間の散髪を再開しました。皆様の善意のカンパ、厚く御礼申し上げます。失礼とは思いますが、露宿誌上を借りてお礼と共に書面にかえさせて戴きます。

青空床屋  
宗春

広告

## 山谷のはりきゅう

あんまQ

山谷労働者福祉会館の「はりきゅう無料診療会」は、10年以上の歴史があります。小田原の現代鍼灸師Nさんが月1回ではじめ、7年前から私を含めてもらい、現在は次のような日程で毎月2回行っています。

第2水曜日 午後2時～6時 Nさんとその仲間たち  
第4土曜日 午後3時～6時 あんまQと受付女性

Nさんは自分のはりきゅうを現代鍼灸とよびます。それが何を意味するのかはさだかではありませんが、その治療技術はすでに達人の域に達しているといつても、決して言いすぎではないでしょう。鎮ばかりではなくお灸をよくつがい、しかも10社（米粒大のモグサを10個連続で使える）、20社とたくさんすこえて良い効果をあげています。お灸は熱いということで敬遠されがちですが、昔の「弘法の灸」のような大きな焼け跡の残るものはいまはほとんどすえません。たまさか、「熱いのやつくれ」と言う人もいます。

Nさんの仲間たちというのは、Nさんの治療院で働く比較的若い鍼灸師です。廿歳も男性もいて、時々顔が変わることがあります。

あんまQは、お灸ばかりしません。もつばら鍼を打ち、そのあとで薬所に薬所にあんま・指圧・マッサージをします。あんまは江戸時代には庶民の病気を治すみじかな町医者でした。いままた上手にタッチすることの治療効果がみなおされています。はり師いがれさんも『露宿』第3号に「人の手が生み出す治療」について書いておられました。

あんまQの時の受付をしてくれている廿歳は、美しくひかえめで、きどらす高ぶらない珍しい人で、ほとんどのお客様は受付をして血圧を測つてもらっているうちに、半分なおつてしまふくらいです。

山谷のはりきゅうに来る人の数は、ここ数年少しずつ減っています。ながらく不況、産業構造の空洞化、求人雇用システムの変更、日雇い労働者の高齢化などで、寄場人口そのものが減少していることは事実でしょう。しかしその裏では、体調の悪い人・病棟を持つ人は、むしろ増えているのではないかでしょう。

どうぞ 気楽に来て下さい。  
よもやま話をしましょう。

私の名は ツエニ一 01.4.1

ジエニーとは地獄の天使である  
詩人のランボーが考へ出した主人公  
の名である。地獄の天使とは  
今だかつて意味も知りぬのである  
地獄の毒薬とランボーが書いた、  
ランボーは、何をさがしていくのだろう。  
彼が歩いた道は地獄だ。左  
手から一、二、三、四を書き回れた。

じん底と死、<sup>モアリ</sup>  
生<sup>ハアラ</sup>。  
よくじん底と云う言葉を聞かれる  
どのようすは底だか。興味があるて、ちよび  
探究してみた。こうすると個人々によて  
底<sup>ハ</sup>が違ひ、わかるように少しきてきた。  
しかしもと具体的に底<sup>モ</sup>うかが、無く  
無限であるといふことをわかつてきたり。

真夜中の  
女と二人で

俳句

熙  
桜  
子

## 白波の 立つ青空

立つ青松や  
雨後の月

(土佐・琴ヶ浜)

同行か蝶上

(土佐・佐賀)

1

一年くらい前のことだけれど、いまでも記憶に残っている場面。

吉  
届  
信

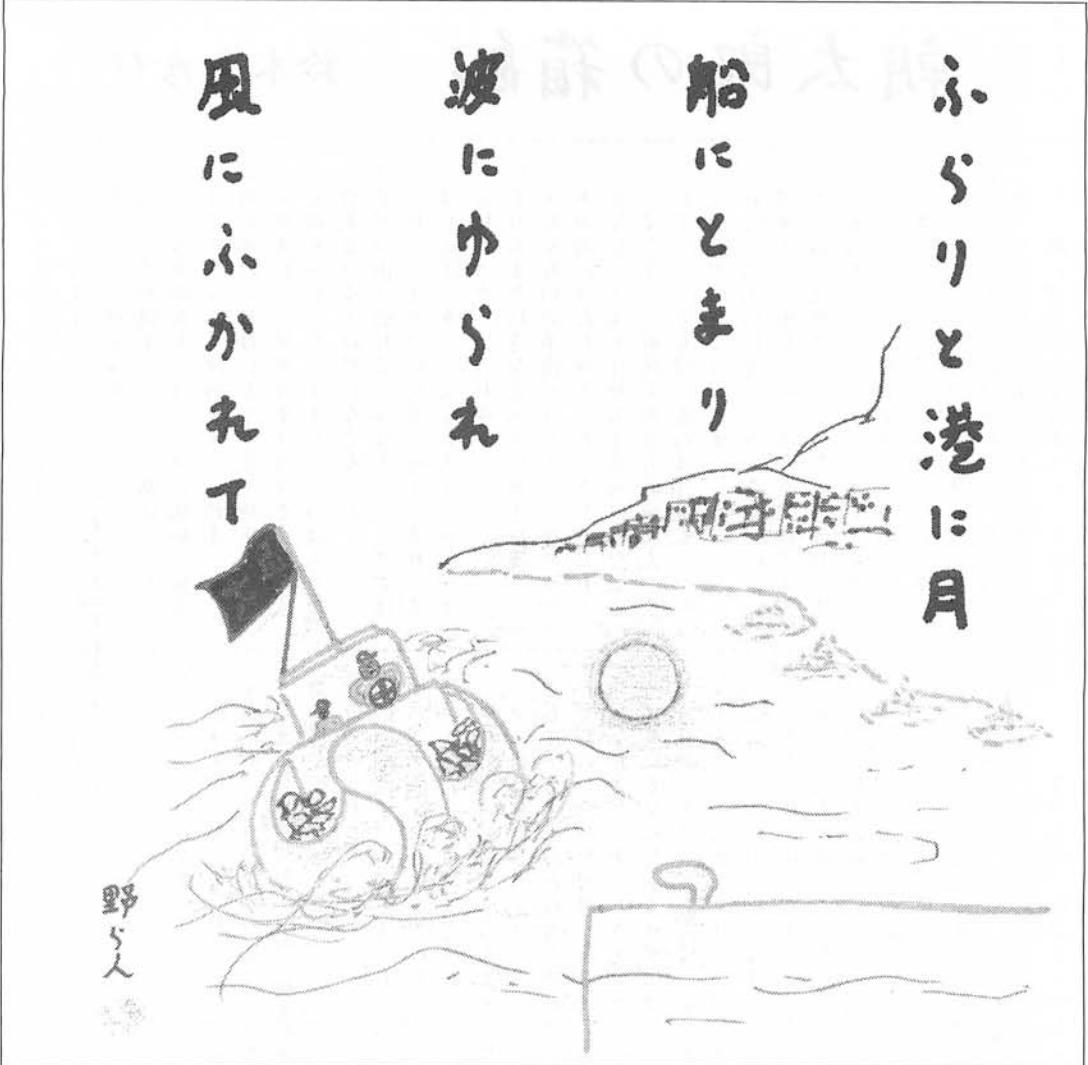
のはなし

あ  
り  
ん  
こ

「じちそうになつてばつかじやんかよ。たまにはじちそうしろよ。  
ごめんなさい、こんどもつてくるから……。  
そうか、まあいいや。忘れんなよ。  
——いつもいつも、酒宴に招待してくれるお  
つちゃんたち。たまにはお土産ももつてかな  
いとね。  
おいしそうですね。きょうの夕飯はなんで  
すか?

ん？ うまそうだろう、  
まあまあ、そこに座つてなよ。

——またまた、ごちそうにあづかつてしまふ  
わたし。うーん、なにをしにきてるのだろう



——おっちゃんたちの話題は、とりとめのない日々の話から教育問題、政治について、はば広い。答えに窮することもしょっちゅうだつたりする。

兄ちゃん、学生だつたよな。こんなとこきてないでちゃんと勉強しろよ。

いやあ、勉強よりこうやつてる方が樂しくて。

ハハハ、しようがねえなあ。親が泣くぞ。

……がんばります。

いつつもそれだよなあ。ちゃんとやれよ。  
いつもおっちゃんたちに励まされてしま  
う。面と向かつては言えないけど、Sさん、  
ありがとう。

なんか、いつもはげまされちゃうなあ。

心配してくれるひとがいるんだから、嬉  
しいだろ。……おれさあ、ありんこに励ま  
されたことがあんだよ。

え、ありにですか？

うん。おれもさあ、いまはこんな生活し  
てるけど……。こんな生活をしてしばらくは

すごい落ち込んだんだよな。落ち込んで下み  
てるとき、ありんこが列つくつ歩いてんだけ  
よ。こんなありんこでも一生懸命がんばつて  
んだなあと思つてなあ。おれもがんばんなき  
やつて。ほんと、ありんこに励ましたよ。  
そうなですかあ……。ぼくももつともつ  
とがんばんなきやなあ。  
そらだぞ。偉くなつてたくさん寄付して  
くんなきやな。  
えつ……。  
ハハハハハ。

薄暗くなつていく公園の片隅でのひとこま。

# 朝太郎の箱船

鈴木克彦作

四、みなさまようならの章

アクマの予言は成就して 神の罰 イカリ

の雨は八日目の朝にとうとう降り出した

何しろ一日の降水量が五百ミリ 夕方には

電気ガス水道が止まり 道路は河となり

善人共の五十億円ワイヤーの乱痴騒ぎ

まで押し流し 神の大風吹き始まつた

気違ひ水は二日にして都電や地下鉄 バ

ス列車にニニアモーターカーを止め 人

も猫も水かぶり 止まらぬものは人々の

脅えとフルエ以外になくなつた

世界中の山は崩れる 谷は土石流 ダムは

被れる川はアフれ濁流に橋は流され 三

日も続けや多くの家屋が沈み あるいは

氣持良さそうに流れゆく

何しろあまりに急な大洪水に大土砂降り

少しくらいの準備や待応ナド 神のシゴ

キの前にはただ無力 ただただやられつ

ばなし 作業も作動もする前にみな崩壊

してしまう 僕地も都市も放送局もヤラ

れて ラジオも聞こえぬ救急隊もこない

豪雨の中にみな狂いだす

それでも朝太郎挺身隊は狂わない 水陸両

用車をくり出しての大活躍だ 物資の搬

入 船の改修終っちゃいない 遅れて集

まる人やらワラを握んで才ボレている人

を救い上げては船に乗せ

迷わず最寄りの刑務所や精神病院に出撃し

なだれ込んでは囚人 患者を救い出す

たとえ殺されなくとも今に溺れ死ぬ抜め

邪魔だてする役人職員生かしちゃおかぬ

ひとりの狂人生かすのに善人の命が何ん

だ 既に世のシクミはチエンジしてゐる

心も碎く雨のため 七日もたず病院船

神の刑が少し早かつたとあきらめろ 我々はアクマに選びぬかれた極悪人 お前ら絶滅種族

キ印の港に船乗りせむと大雨までば潮もかなひぬ今は押し出しな アクマさん（注）

史上最大最後の大脱走を見事に敢行させて

余力を駆つてストリップ小屋に奇襲を

かけて

この世の菩薩行を正しく行う心優しき踊り

娘娘を奪い取つて 我が方の損害微弱ナリ

その上サファリパークにまでも攻め寄せて

オボレる動物かすめ取り朝太郎軍万万才

挺身隊が船に戻つたあと アクマ様は船の

うしろの戸をフサグ

半信半疑のクレーージー達はもう入れない

アクマを疑い決定できぬ中途半端な気違

いは アクマサマさえ救わないと夜をコ

メで狂人の空音をハカルとも 世にアク

マの船は許さじだ（注）

ましてアクマを恐れぬ大自惚れ者の神の信

者やら 牧師や司教 法王・大僧正様な

らなお更だ テットウテツビいびられる

四日目にもなると水力更に増し 十万ト

ン風袋のギヤベッジ船はブッカリ水に浮く

二千五百の悪人善人乗せたクソ船は 油も

ない帆もないのに動きだす

何しろもの凄い雨のため発生する濃霧のた

めに 西もヒガシも分からぬどこへ

行くのかも分らない

分らぬのにサマヨイ出た訳は アクマさ

まの御心御意志に添つたこと 信じる者は誰も みーんな救われる！

反歌二題

山川も依りて仕ふるバカヤローだから

たぎつ海原に船出せずかも（注）

オン目出たく朝太郎の箱船は出帆し 地上

の六十億の者と同じくらいの家畜も死に

その他の蝶類やクモ類 鳥も死んだワケ

ナカンヅク人類はタダで死にやしない 死ぬほど足掻いてワメイでカミついて 空

までひつかいでから死んでゆく

死にたくないやつらが死にタクないと跪く

意地の汚ならしさ 見方によつては美しさ

人々どこにも行き場などありやしない

い アツという間に水の中 港や山に近い人々は押し合いへし合い 力ずく体力

すぐで船へ山へと逃れたが

ああ無情 レ・ミゼラブル！ トラブル

雨のさ中にやつと乗れたるハシケやヨツ

トのたぐい 人が乗りすぎて沈んでしまう

これが日中戦争の頃ならば 死んでも船を離しませんとか 寄せくる怨敵オール

で殴り殺しておいて お船の大将俺ひと

りあとから乗る者つき落とせ（注）

爆弾力力工た三勇士が船をのつ取つたとか

金持だけが乗つて逃げる大船を沈めて

やつたとか 美談醜談奇談も生じようが

今はそんないトマはない

やつと乗つたはいいが何の準備もない 油

はないさあ走らない食いモンはない

動き出した幸運船もそこらの船や岩壁や

防波堤やら暗礁にブツかつたり乗り上げ

たり 海洋に出た船も十五里霧中 身も

## ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

人々食いモノ争いに明け暮れる 動きも止まつた船中にさのうの友はきようの食人種敗れた者が食われる抜はムゴタラシイ 人食獸の修羅場となり果てる  
よけい者でない善人人種のあさましさ 嵐の中に奪い合いわめき合い カジり合い 倒れた者の頭をタタキ割り 寄つてタカッテおおぞンビ！ 脳ミンを手づかみで食いクラウ老人小供はひとりも生かしちゃおかぬ マサニ食尽きて礼節を失なうとはこのことかそれまでして生きる理由資格のある普通入山へ逃げた連中まだひどい 山崩れと土砂降りが滝の如く落ちかかる 山が河となつて流れ出す山嵐 風が岩となつて飛んでくる寒さと疲れと恐怖と飢え不安に狂つて死んでゆく 切れ間のない豪雨の中にしては狂うことと死ぬことばかり ありがたくもカシコクも 武士道を悟脱した為体世界中モレなく水びだし あつという間に平地は沈み ライ病大使も女盗賊議員も シニル一ク殿下も二重スパイのCIA長官も溺れ死ぬ自由主義陣営も旧共産圏社会も発展途上国もリーチーも不法入国者も農業経営者も熱狂信者もロック歌手もマヤク患者もオカマイなしヒミツの基地から軍用機で飛び立てるUSAのオエライさん 着陸地点は海だった  
みな平等に天の恵みを頂戴した次第これもみな 神を恐れぬ人のナレの果て アク

ブリを百パーント發揮したシダイ ワンサカミサイル造りの次にはわんさかミサイルべらし 原子力ハイキ物運搬船をののしる声を尻目に 破産國から武器や空母を買いタタキ 原爆実験見事に成功させたのに 世は常に無常ヘンカして止まぬ  
社会・国家のためだ 平和のためだと嘘ついた 彼らの情熱と科学ギジュツとやらも 臓器移植 試験管ベービイも 人々を宇宙の彼方に運べやしなかつた ただイタズラに空しくも淋しくも 人工衛生が地球の囲いを回つている スパイ衛生が大海原の青い写真を取りマクル そんな中にも幸福者はタクサンおつた 世界各國の指導者連中に右・左翼団体の音頭取り 世界の平和だ人ルイの危機だとキキキキわめく 宗教家や熱狂信者に反核連中こんな度し難い嘘つき奴らに人々が 復讐しているイトマがなかつただけに 暴行乱行虐待虐殺されず死者もムチ打たれずに 死にくたばたたのは幸だつた が 復讐しているイトマがなかつただけに 叫ぶミナだの題目ネン仏全く聞こえやしない

ただ救われたのは朝太郎連中 二十万トンものクソを積み込んだボロ船は 嵐にも雨にも耐え忍び 陸地の見えぬ暗い海を行く この広い地球のこと 高い山もあるうからきつと生きてる人もあるだろう でもみなさん 一応ここでさようなら そんなやつらに神仏何するものか 声限りに叫ぶミナだの題目ネン仏全く聞こえやしない  
神の飼い殺しは一錢五厘の召集兵よりなお悪い この日のタメに無理してヤセ我慢して 清く正しく公平に生きた者説いた者 さんざん神にコキ使われたあげくに無報酬 果して天国に入れてもらえたかは疑わしい入れてくれるくらいなら人類全滅なんかする訳がない しかも善人・普通人をだくらく神との契約とか審判なんてのは力

生きのびるし 生きねばならん

みなさん 長いことじめバカにしてくれてありがとう  
とさん けれどこれでサヨウナラ これからもど  
うぞよろしくと 言つてお礼もできないことが誠

に残念無念

みなさんよーく眠つて下さい 夜もまともに眠らず  
昼も休まず働いて 不況にリストラ ストレス貯  
金のようにタメテ きっとネ不足に違ひない

お小様もテレビマンガでテンカン起し オー一百五十  
で入院せにやならんし ジュクや学校でシゴかれ  
て 狹い部屋や道路でうごめかならんし忙しかった

その上イジメいじめられの学校生活に 児童虐待の  
御両親 これに抗すりや少年犯罪法 さぞバカラ  
しく下ラナク不快だつたろう

さあもうこれ以上 世の中やバカな大人のマネなど  
せず従わず 大自然の中に知を去り学を去りパソ  
コンを去り 心自由にして悠々と魚のようにな海の  
中に魂を泳がせよう ポーケン タンケンはホン  
トに楽しいよ

痴狂人はもう 少しもアナタ方を怒つてませんから  
永久に寝て下さい アナタ方の文化科学 I T  
など見たり触つたり使つたりしませんから 大事  
にアノ世に持つて行つて下さい

アクマ様はヤスラカニ眠つた者を叩き起してマデ  
世にも下らぬ大審判ナンテばかなまねしませんか  
らネ

(注)は、引用、書き替えなどしたもので、必要があ  
れば(著作権などの問題)、これを正式に届ける用意  
があります。

## 見てきた野宿

句でつづる

大阪から東京へ自転車の旅

橋 安純

凍る朝 自転車こいで放浪へ  
たりすぎて捨てて出かける寒波朝  
さからう風 力をこめてペダルこぐ  
風が下着をふきぬけて進む自転車  
風のあとおし自転車とんでも  
一人旅はなしけてる一人言  
今夜の寝床は国道わきで  
そこ寝る人いるよ場所あけわたす旅先野宿  
ここで寝た人 頭に石を落とされた  
覚悟して危ないと言われた所に野宿する  
騒ぎ声 聞き耳たてて寝むられず  
きれいな街になつて分離帯にほこりかぶつ  
て野宿者  
ほほえんで鳩にエサまく野宿おっちゃん  
ふえすぎて公害になり平和使者  
遠くきて暖かき友あり横浜夕暮  
おちついて野宿する場所あり長居する  
野宿テントどかしチューリップ植える市役  
所のやさしさ

足もと見ない遠くを見てる「やさしい心」

(二〇〇一年一月〜四月)

1 以下3句新宿駅西口広場にて一

動く歩道あるかされるあるいてる  
野宿者追い出し動く歩道つくる二十世  
紀かな

催物場つくるくらいならシェルターと  
して解放しろ新宿西口地下

軒下野宿 感謝する見て見ぬふりの警  
備員

寒の雨 動けぬままに日がくれて  
地下避難もどり寒波に併ずん（注）  
毎日が耐寒くんれん命ちぢんで

ふたたびに寒波 生きのこれよおまえ  
も

冬銀河 百円玉の重き知る  
暑寒をはだで感じて路上生き

桜に雪ふるえているぞ路上にて  
さくら咲きこれから野宿によろしい季

節で 役所の世話にならず仮設住宅自分で建  
てる

野宿者ふえてふえて認知せまる  
国道で自転車ころべばペッちゃんこ

ころばずに引き逃げされずに帰り着き

生きててもどつて次の放浪を考えている

## 路上

五  
林

私が言う路上とは、白い紙に書かれた路上で  
はない。

生きる」と心の碑に刻み込んだ、命が、堅く  
えれば、敗戦の年である。

支援か、仲間か、団結か、福祉か、人権かの  
立ち往く路上「そのものである」

年は2000+1年であるから、五十五歳と言  
えば1945年生まれである。1945年と言  
えれば、敗戦の年である。

戦後の復興に力を尽したが、底冷えする路上  
で、その日の命を死線にさらさねばならぬとい  
う事。

劣悪な条件に、立ち向かわねばならぬという  
事。路上で共に支え合っている互いである。  
私は、はつきり言おう。

「軽く、路上生活者と呼ばないでくれ。路上  
に消えた仲間同士の生きる希望は、何をもって  
しても償い切れはしない。私達が、築いた路が、  
私達の墓場であつて良い訳など、有つてはなら  
ない」と。

路上で冷え切った友の体を抱きしめ、その上  
で“路上生活”と言うべきではないか。

夜の街を涙して徘徊し、幾晩も眠れず、狂人  
のように身を持ち崩した者だけが、“路上”と言え  
るのでないか。  
汚れた者だけが知る清き心を君達は知るか。  
殺す側と殺される側の和解が、路上にあるので  
あれば、そもそも闇いなど必要としない。

考え方から、何が生まれたか。これまでのかかわ  
りでは、路上に倒れ死線をさまよう命を、守れ  
る訳など、有り得ない。

山頂から、谷底にある一本の針めどに糸を絆  
として差し通す。正確さで、狙います。考え  
るとはそうあるべきものである。行為としての  
考え。御茶会で談笑しての興味本位のかかわり、  
これが寄せ場としてある山の岩盤を打ち砕ける  
なら、見せていただきたい。

露宿。正に露宿。

昨夜は、路上に春の雨、ハロイの通りには野  
宿者。そして野群。

理解の前提は、知識ではなく、知識に基づい  
た体现ではないか。  
「糞小便にまみれ、髪を振り乱し、ゴミの中  
の残飯を喰らえ」とは言ひはしない。私が主張  
する点は、唯「能書きが、過ぎはしないか」と  
いう一点である。

個々に事情あり、互いが互いを認め合い、方  
向を見失う事なく進む事。これを難しく思  
ふのではないか。

路上で冷え切った友の体を抱きしめ、その上  
で“路上生活”と言ふべきではないか。

恐怖におびえての醉乱群。

路上で、人と人が交わり、関係を保つ、この  
事は、「能書きあつての交わり」ではなく、解り  
合う関係。だから、理解するとは行為である。

犯罪者、薬物中毒者、精神異常者、そして性  
同一性者。誰れにも言えぬ言葉を胸に秘め、人  
として人間として生きん。が為に、苦闘してい  
る路上。

誰ぞ知る！知る人ぞ知る。我れ路上に立つ。

時に、黙つていなければ身が持たない。

言葉を出そものなら、命取りになる。

“やれやれ”、俺も臆病風に吹かれて路上で眠  
るか。

誠に、山谷路上は御粗末である。

# 醉生夢死

## 野宿三千生

### 禿黄耳

私がここにテントを張つてからもう四九三六年になる。私はテントの中で暮している。どんな様である。生きてゆくのは楽ではないが朝になると目が覚める。毎朝決つた時刻になると庭鳥の音がする。8回か9回鳴く。10回だつたかもしれないが6回だつたかもしれない。とにかく音が聞こえて目が覚める。だから時計がなくても困らない。

私はテントの中で暮している。テントの外へはあまり出たことがない。私はひきこもりが大好きだ。テントの中に居るといろいろなものが見えたり見えなかつたりする。今、私は一人の男を見ている。あるいは一人の男が見える。私は彼と一度も話したことがない。彼は噴水の向こうの木の下にあるベンチの上で横になつて眠っている。本当は寝たふりをしているのだが、眠つていてる。ベンチは永い風雪に耐えかねて厚手の板はどうに朽ち欠けていたり穴が明いていたりする。もしかすると彼はベンチを守つてゐるのかもしれない。あるいはベンチと共に生きているのだろうか。いや、彼はベンチだ。ベンチが彼だ。眠つてるのはベンチだ。

そのベンチは噴水の向こうの森の奥にある博物

館の西脇から長く伸びたセイヨウハコヤナギ並木の通りを過ぎて横断歩道を渡るとしばらく墓地が続くからバス停のある十字路で墓地を横切り235メートル行くと大きな銀杏の古木が見えてくると思えるのだが実はその古木は櫻でその櫻がちょうど1メートルの大きさに見える所にあるうなぎ屋の角をしだりに回つてまつぐ1キロ程歩いて突き当つた正面にある猿の額くらいの大きな公園の中の木の下にあるたつたひとつのベンチのことだ。

どうしたらあんな風狂に生きられるのかわからぬ。真冬に彼が見えると寒くてたまらない。寒すぎる。しかし彼は眠つていてる。ただ眠つているだけだが、だれもが彼のことを何故か急げ者だと口にせずに語りあつてゐる。だれも彼と話したことがないし、だれもその朽ちはてたベンチの上で眠つたこともない。靴下を脱いで彼のサンダルを履いたこともなければ、そのサンダルを履いて彼の庭を歩きまわつたこともない。なのに何故かだれもが彼を好きじゃない。彼を嫌つてゐる。彼は疎んじられている。

天から何かが降りてくる

しかし、最近私はふと何かに気付いてしまつた。ような気がする。いやな予感とでもいうのか、対象なき恐怖とでもいうのか、何か得体の知れないものに出逢いつつあるような気がしてならない。そんな気がする。もう少し具体化していくと、急げ者というのももしかするところ。ことなのがな、というような思いである。そしてそれはなんとなくいやな感じなのである。そこまでいうと具体化しすぎかもしれないが、とにかく変な感じなのだ。おかしな感じだ。

おかしい。おかしいし変だ。

私はときどきテントの中でもおの思いに悩んだり、もの忘れに耽つたりする。だれもが急げ者と呼ばれる者を見つけては得意になつたり嫌つたりするが、私は今まで急げ者と呼ばれる者達を嫌つたことがない。私は急げ者と呼ばれる者がなかつた。たれかが「あいつ急げ者だぜ」と言えば「あいつが急げ者か」と感心することすらあつた。急げ者と呼ばれる者達を見ていると、働き者とか狼藉者とは別に、どこか山川草木と見紛がうものだから自力で急げ者を見つけることができず、いつも他力に依つていた。

わからない。

私の五体は満足だが私の脳髄に潜む私の中のものが肩が私の思考を不満足にする。私は見えるし、私は聞こえる。

「善も惡も精一杯さにおいては対等だ」という京都人の言葉を見たし「女の又力は無能をなぐさめる言葉なんだ」という他人の判断を信じたこともある。

アーメン。  
どうでもいいことも、どうでもわるいことも何もかも全てがそうありますように。上りの道も下りの道も今は雨が降って濡れているが人類は枯れ木にぶらさがった猿が三匹トボトボとうろついている一本の道である。

天からますます雨が降りてくる  
公園のトイレでは樵と釣人が雨宿りをしている。釣人は肩から黒いショルダーバッグをさげ、手に紙袋を持っている。釣人のとなりでは座り込んだ樵が動物園から拾ってきた象の糞で芋を焼いている。釣人の口元でよだれがかすかに光った。しばらく天を仰いでいた釣人が眼をカタコトイさせてゆつくりと、だが力強くつぶやいた。

一ふるものはかくのごときか、なんにもおかげ。てんへもかえらず、きにものばらず：なぜ、なにごとかをなすにはみじかすぎ、なにごともなきぬにはながすぎるおれのしようがいが、おおいなるまひる、ござんにじのふかすぎるしんえんのうちにしずみ、おれのからだをぬ

## 赤い浜辺 井上林太郎

01・05・20

らし、げんにおれのてにすることのできるこのちいきなうできのなかのくうかんが、うできのしらない、またうできをしらないむげんのどろぬまのなかへぼつしていることをかんがえるとき、おれはおれがわれであり、なんじでないことをふしぎにおもう。なぜなら、なぜこのじやむはきのうのじやむやあしたのじやむではなくきょうのじやむなのか。あそにさいでいるおぎょうはなぜここでかれているげんげではないのか。そこにはりゆうがないからだ。なにがとつくりをあんなところにおいたのか。なんのきまぐれがこのあめをふらし、なんのおせわでおれにこのべんじよののきしたがあたえられたのか：

もし、あるいはまだおれのなかにきぼうがのこつているのなら、なぜおれはぜつぱうしているのだ。樵はうす汚れてすり切れたシャツの袖でアオッパナを拭きながら焼きあがつたばかりの蘿郁たる芋に喰らいついている。やがて芯まで喰らいつく寸と何やらヘラヘラとした笑いがこみあげてきた。樵は応えた。

一ことを、おもしろくするために。  
樵はうす汚れてすり切れたシャツの袖でアオッパナを拭きながら焼きあがつたばかりの蘿郁たる芋に喰らいついている。やがて芯まで喰らいつく寸と何やらヘラヘラとした笑いがこみあげてきた。樵は応えた。  
天からますます雨が降りてくる  
樵はうす汚れてすり切れたシャツの袖でアオッパナを拭きながら焼きあがつたばかりの蘿郁たる芋に喰らいついている。やがて芯まで喰らいつく寸と何やらヘラヘラとした笑いがこみあげてきた。樵は応えた。

そう言うと樵はうつむいてゴワゴワになつたズボンの裾で優しく口元を拭いた。そうしてしばらくぼくのからだを素通りする  
釣人の紙袋の中を覗き込んでいたが、中には何も無く、ただ渺渺とした紙面の「白さ」が広がるばかりだった。

天からますます激しく雨が降りてくる

木の下のベンチの上で彼は眠っている。

ひとりになつたとき

血の海にたつてることを知る  
ぼくの血  
そして返り血だ

おもい疲れ  
その正体がこの

血の海  
赤い浜辺には  
まばらに人影がたつ

話しかけたくても  
ちかづいても  
人影は影のまま

ぼくのからだを素通りする  
赤い浜辺にたつことを  
ぼくは知る  
人間を素通りしてきたものたちが  
血の海をつくる

こだますするおもかげ  
ぼくにもまだ残っていた  
良心のかけらに  
人影が映る



## 宿無しの散歩道

(三四の猫)

中津川あゆみ

北野春子は、寒さで目が覚めた。春子は、ホームレス歴三年のベテラン（否、中堅というべきであろう）である。寒さや暑さに対する対処法くらいは心得ているつもりだが、今年は四月に入つてからというもの天候が不順で、昨日まで夏の様な陽気が続いたことから、ダンボールの組立が少し甘かつたようだ。

（クソツ、風邪ひいてもタ）春子は人指し指で鼻頭をクイッ拭くと、ダンボールを片付け、いつもの秘密の場所へ隠した。  
今、山手線の始発電車が行つたばかりだから、四時四十二分である。駅のシャッターも聞いた頃だ。

「サッテ、行くか」

少し汚れたジーパンの尻をポンと叩くと、茶のショルダーバッグを肩に掛け、歩きはじめた。春子は、朝起るとまず散歩するのが彼女の日課である。

人もまばらな上野駅の構内を抜けて、アメ横前のスクランブル交差点を右に行くと、広い大きな階段がある。その横には、百貨店とは名ばかりの、古い雑居ビルがある。いつもは階段の中程にいつ来るか分らない客を待つて、似顔絵描きが、二、三人座り込んでいるのだが、今はまだいない。

やつと差して来た朝日に顔を染めながら、春子は階段を登った。昔は、この付近を『袴腰』と呼んだらしいが、今は誰も知らない。

今まで登ると、まだ朝早い為か、観光客の姿はまだ無い。西郷さんは、いつもと変る事なく

愛犬を連れて散歩を楽しんでいる。その後ろには、最後の將軍徳川慶喜の為に死んでいった彰義隊の墓が、薄暗い木陰の中にひっそりと建っている。

上野は、江戸時代より花見の名所として知られているが、花見客が多いのは今も昔も変わらない。しかし、西郷さんの回りは、楠や銀杏の大木が中をきかせているので、桜にとつては少し肩身が狭い。それでも薄紅色の花びらをいっぱいに抜け、春の陽射しの中で風に揺れていた。

上野の公園はいつ来ても気持が良い。

春子が公園に来る時は、いつも彰義隊資料室の横にある八角堂へ寄ることにしている。

八角堂（正式な名前は知らない）は観音堂を模した様なコンクリート造りで、格子窓と丸い二段屋根の有る可愛い建物だ。その中央にまるで刑務所を想像させるかの様な、観音開きの頑丈な扉がある。春子は、上野の街に流れ来た頃、この建物が何なのか解らず、近くに居たホームレス仲間に尋ねた事があった。その仲間が言うには、「昔、八角堂は、もともと公園から上野駅へ抜ける近道があつた所だ」と教えてくれた。（今は上野百貨店の換気口となつていて）

その八角堂の前に有る背凭れの無い白ベンチに腰を下すと、ショルダーバッグの中から煙草を取り出し、火を点けた。

その時。

春子は、足元に奇妙な動物が居ることに気付

き、「キヤーッ」と声を出して立ち上がった。

春子の叫び声は、近くで寝ている仲間達を起すには十分すぎる程の大声であつた。

「どうした。何が起つたンや？」

五時を過ぎた頃である。五、六人の男達が春子の回りに集つて來た。

恐る恐る下を見ると、一匹の可愛い小猫が居た。生れたばかりなのであろうか、足をふらつかせながら、春子の靴へ上ろうとしている。

それを見た仲間達は、

「何ンや、猫やないかい」と、下手な閑西弁で笑いながら詰つた。

春子は、照れ臭そうに小猫を拾い上げると、ジーパンの膝の上に乗せてみた。

「小猫ちゃん、どうちたの、何處から来たの？」

「……」猫は答えない。

(まだ生まれたばかりだから、言葉知らんのやろナ) 小猫の頭を撫でていると、又、別

の所から猫の鳴き声が聞こえて來た。

ふと見ると、八角堂の鉄の扉の前に男がひとり猫を抱いて座つている。

「ネーチャン。欲しかつたら遣るヨ」

その男は春子にそう言うと、また下を向いた。七十五、六才位であろうか、男は冬物の汚れ

たジャンパーと、頭にグレー（もとは白かったのかも知れない）の帽子をかぶつている。顔は、人生に疲れ果てたかの様に見えるが、小猫をみつめる瞳は、まるで子供のように優しく穏である。横には黄色のダンボール箱が有り、その中

にはもう一匹、まだらな小猫がいた。その箱の中には毛糸のセーターであろうか、布団がわりに敷いてある。

男は、自分が抱いている小猫の目を一生懸命拭いでいる。「何をしているのか」と覗いてみると、小猫の片方の目が目脂で濁っている。その目脂を丁寧に拭き取つてゐるのだつた。

男は胸ポケットに手を入れて、小さな容器を取り出した。コンビニの弁当に入つてゐる醤油入れの様なもので、中に黄色の液体が入つてゐる。「おじさん。それ何ンネ？」春子が聞いた。「目薬や」男はボッソと答えると、嫌がる小猫の頭を押えながら、目脂の中に一滴落とした。聞くと、小猫達は三日前に不忍池の辺りで拾つた、という。男は昨日、集めたアルミ缶を売つて、動物用の目薬とネコ缶を五つ買つたのだけつた。

アルミ缶は、拾い集めて業者に売るのだが、今は、一キロ七十五円が相場である。大きなビニール袋に、潰していくばい詰めて、やつと十キロ程にしかならない。春子自身、毎日アルミ缶を拾い廻つてゐるが、十キロ集めるのは容易な事ではない。一日三、四キロ程度しか集まらないのが常である。

春子は自分の手を見た。汚れ、輝割れたその手は、とても三十代の女のものとは思えない。

(もしも私が、この目の前に居るおじさんだ

春子は男の姿を見ながら考えた。

(もし、小猫を拾つたら、私は同じ様に、目薬やネコ缶を買い与える事が出来るだろうか：)

アルミ缶を売つても千円位にしかならない。

春子は、自分なら煙草と風呂券を買うだろうし、

とても猫の事などかまつてはいられないと思つた。

(この男は、なンて優しいのだろう……)

(否、違う。この男はきっと馬鹿なのだ。でなければ自分がひもじい思いをしてまで、誰が猫になんか餌など買うものか。そうだ、馬鹿だ！馬鹿だ！大馬鹿者に決つてる)

春子は、無理矢理自分の心にそう言い聞かせた。

すると、春子の瞳から熱い泪が頬をつたつて落ちた。

トイレの手洗場へ行くと、顔を洗つた。何度も、なんども洗つた。

春子は、他の仲間同様に、自分の過去を捨てた人間である。もう捨てる物は何も残つてはない。しかし、小猫を可愛いがるくらいの優しさは持ち続けようと、心に決めた。

顔を洗つて振り返ると、八角堂の男の肩に、白い桜の花びらが輝いていた。

卷頭、露宿二周年記念おめでたう。

投稿者、露宿を読んでおられる仲間たち、一般愛読者と共に、末長く発刊される事を望み、編集関係に労をねぎらい感謝と敬意を表します。再度おめでとう。

## 恒例の新宿夏祭り

### が近づく 風来坊



新宿中央公園にも青葉が繁つて来た。第七回新宿メーデーも全都の仲間が一致団結で集結し盛大に意義ある闘争で勝利に終つた。私自身、今年のメーデーこそはと、支援者及び仲間達の恩返しのため…。

惜しくも病に屈し病院で孤独の淋しさで亡くなつた、故平野某、彼は、死ぬその日まで連絡会支援者の恩義を重んじた仲間の一人だつた。誰よりも仲間に愛され親しまれ、仲間を信頼した彼だつた。私の脳裏からは忘却する事が出来ない。連れ立つて歩いた第二回メーデーと新宿夏祭りである。記憶には、平成七年八月十三日、天候は良く、朝早くから夕方開催される準備に多忙であった。その頃新宿連絡会に属して、太鼓を中心とした演奏と踊りの音楽班が誕生した。

太鼓、中門あき子さんを筆頭に、共に小太鼓を打つ仲間が二人と、尺八に八木氏、三線に河野氏、踊り外人女性、氏は不詳、歌、小林、司会、平野氏、と結成し、広場では開催準備に忙がしい仲間とは離れ、最後の練習に何も彼も忘れ、只、夢中そのものだつた。夕方にもなると日中の暑さも遠のき涼しさが少し増して來た。炊出しの準備も出来、数百人の仲間がそれぞれ其処に散かれたブルーシートの上に各自陣取り配られて来る弁当と缶ビールを受取り乍らの一人一人の笑顔が幸福感を味わっている内、新宿連絡会の笠井さんの開会の挨拶である。埃にまみれ、暑さと鬱々としている仲

間が、この夏祭りをどれだけ待ち憧れていただろうか、私もその一人であった、亡き友、平野氏は私にこう言つたのが今でも脳裏に刻みこまれている。

「小林さん、私達ホームレスの仲間が、まさか盆踊りをするとは夢にも思はなかつた。野宿をしていても人間なんだ。幼い頃家族で盆踊りに行つた事が、昨日の様に思われてならない。私は必ず立ち直る。この様に私達を支援して下さる方々に対して、立ち直る事がそれが何よりの恩返しですね」

私も同感であつた。

この夏祭り大会に際して、新宿西口インフォメ前で、のど自慢の予選が、日曜日の炊出し後二週に別れて行なはれ、出場者が十人が選ばれ、私もその一人に関わつた。この審査は一般人から選ばれた。

会場は人が一杯で中には近辺の方らしき人達も浴衣姿で見物し、応援を送つてゐたのが目に入る。予選に合格した仲間が得意の唄をカラオケレコードに合わせ乍ら歌つてゐる。歌い終ると仲間からの拍手だ。この拍手こそがかつて五月一日のメーデーで都府まで各自がスローガンを掲げ力強く一步一歩大地を踏みしめた足音そのものに感じとつた。歓声と共に私の出番が來た。平野達音楽班の仲間達はそれぞれに、頑張れよ、の声を背中で聞き乍ら、設置された青空舞台に立つた。背後には新宿夏祭りと書かれた横断幕を横目で見乍ら、一息入れ乍ら夜空を見上げる。何時の間にか緊張感もほぐれ、空には星が夜空をかけ巡る程きらめいていた。この大会の為に持参して來た甚平を身に着け、豆絞りの手拭ひで捻り鉢巻きを力一杯頭に結び、雪駄を履き、場内からの喝采を浴び乍ら、レーザーから流れ来る中村美津子が唱う テンボのいいメロディーを聞き乍ら、河内おとこ節を力一杯、唱いあげた。唱つてゐる間、仲間達が一瞬にも応援したあの場面は今も尚、私を励ましてくれる。其の仲間達は私の記憶するところ今は数える程しか見当たらず、数多き仲間達は自立したのであろうか。今でもどこかの空の下で野宿をしているのではなかろうか。親友平野氏のように

病魔と聞い乍ら淋しくあの世とやらえ旅立つたのであろうか：書いている内に余談になつたらしい、失礼を。

さてそれぞの歌は終つた。後は審査を待つだけ。静けさが戻った時、審査の発表である。惜しくも一位にはならなかつたが、歌唱賞と演技賞を勝ち取り、過去学生の頃に賞は貰つた経験はあるものの、仲間が一生懸命、陰で私を支えてくれたその結果が賞に選ばれたのである。ふと嬉し涙が頬を濡らしていた。

感無量の一駒で時は過ぎた。皆が待ち憧れていた音楽班の登場である。太鼓を打ち込む、仲間の晴れ姿、沖縄民謡や各地の民謡を心ゆくまで演奏、今までの苦労も不満も吹つ飛ぶような仲間の満足感が湧き溢れる中、演奏は終止符をうつ。

ブルーシートが手早く片付けられ、人の輪が二重にも三重にも広がり、盆踊り大会が始まる。輪の中央には、大太鼓が設置され、地元の栗原さんが大太鼓を披露され響き渡る音と友に、手に手にウチワを持って踊る人。さまざまな容姿で踊る仲間達に混り一般の見物人も踊りに加わり東京音頭から炭坑節、他曲が流れるその中で新宿の空に、己の心の底まで届けとばかり声を張り上げ、踊りに狂い続けた。短い時間ではあつたが、明日に希望を胸に抱き乍ら一人、また一人と、帰途に着いた。私達は最後まで残り後片付けをし、自分も明日と云う日に夢を持ち、人生を歩みたい。

今年も新宿夏祭りが接近して来た。私もその日の来るのを楽しみに待ち、亡き友の為にも「仲間達も今も元氣でいる」と伝えてやりたいと共に重ねて冥福を心から祈つてやりたい

亡き友が

我と踊りし 夏祭り

今も瞼に 思ひ出遠し



詩集

# 「エロスの廃園」

望月大成

より

## 六、<sup>カルトアーティスト</sup>病理家族

大変です 母さん ペットが

母さんの大切なペット

あの野郎 くすねて行つしまつたんです  
よもやと思つましたが そのよもやが……あ、

本当になつちました  
野郎つて？ ほら あの男

オウム真理教——麻原彰晃ですよ  
世の中一寸先は闇 何が起るか分つたもんじやあ

りません  
あいつの弟子が うちのペットを拾うなんて

猿め 意外としぶとい奴

もうとっくにくたばつたと思つてたら  
まだ 生きていたなんて

何と執念深い猿め

母さん すごく怒つています

遠くへだて、いても 私たちよく分ります

法輪寺の墓の下から 母さんの煮えたごる唸り声

びんぎ 韶いで参ります

分ります 母さんの激しいお怒り

生涯かけて作りあげた母さんの大切なペット

猿めは母さんの 大切な宝

オリから逃げ出すたびに 母さんに煮え湯を飲ませ

さん 手こずらせた 調教猿め

御免なさいね 母さん

私たちがのろまだつばかりに  
辛い思いをさせてきた 私たちの親不幸

どうか 勘弁して下さい

## 二十五、作曲屋

— 小金井署署員との対話

ところで お前さんよう  
本当に作曲屋さんか？ 嘘だろ

おれ 聞いたことないぜ

歌手は誰だ？ 何 キングの音羽さつき？

へえ その嘘本当かよう

ま 嘘だと思うが いつちよう調べてみるか

そんな偉い大先生がよう

こんなところにいるわけねえよなあ

お前さん ひょつとして芸能詐欺師じやねえのか？

お前さん ひょつとして芸能詐欺師じやねえのあれ

お前 そんな大物じやなさ そうだがな

見たとこじや 小物だな

それで逃げまわつとんとちやうか？

おれ 國星と思うがな

芸能界によくある あれ

お前 そんな大物じやなさ そうだがな

見たとこじや 小物だな

それで逃げまわつとんとちやうか？

おれ 國星と思うがな

今日んとこは勘弁してやる

でも 今度やつたら一巻の終りだせ

間違いなくお前さん 二十日間ぶち込んでやる

身内には氣の毒だけんど

仕方ねえ これもお役目だからな

い、年だろ？ お前

芸能詐欺なんてケチなこと止めて

土方でもい、掃除人夫でもガードマンでも

真面目に働いたらどうだい？

年だからだつて？ お前 六十だろ

まだ も働けるよ そんな怠け根性があるからよ

悪いことして とゞのつまりは

ブーツローフてわけ

もつと 根性入れ替えな

今度こそ くたばります

一九九五、五、十七 上九村にて

小金井にいるこたねえ

富士の火山岩の影に埋もれた  
はかない月見草  
老いてくたばつた晩には

骨はボアされて 精進湖に棄ち捨てられます  
猿めの四十九日には 湖の墓場で

一家そろつてビクニック  
母さんの位牌の前に お仙香供えます

麻原はしぶとい奴です  
何を仕出かすか 分らん男です

もしや 我が家の家宝

中古ベットーひよつとして生き返らせる？

まあ それはないと思います

加害者の会に計らつて

泣きごとわめいても 助けを求める

そんな時こそ 思い切りぶつた、いてやります

ふんと 無視してやります

猿めはもう 用済みのボロツ滓

捨て場所がオウム 死に場所もオウムなら

墮ちるところは地獄

相思相愛 麻原と仲よく手を組んで

今度こそ くたばります

少しでも身内の恥を知る気があるなら

小金井にいるこたねえ

# ダイヤモンドのカケラ

## 口野醉払

三月三十日、金曜日。水曜日のN町のミーティング会場で「考える人」をいただいたHグループの仲間から、「ロダン、金曜日神宮前に来てよ。二人の仲間のメダルミーティングなんだ。」といわれていた。私の行動日程は、前日に、スケジュール申告書として提出することになっているので、木曜日の朝、金曜の夜のAAは神宮前(HG)と書いていた。

夕食を十六時三十分に済せて施設を出発した。大江戸線代々木駅を降りたのが十八時二十分だった。昨年の十二月三十一日と、忘れることが多い。なぜか、千駄ヶ谷を歩いていた今年の一月一日と同じ日にロダンの「考える人」をいただいた日にも代々木から神宮前会場へ足を運んでいたことから、間違はずなどないはずなのに、なぜか、千駄ヶ谷を歩いていたのに気が付いた。道のあちこちで立ち止つては、人に聞き、お店に入つて聞きながら、十九時を一、二分過ぎていたが、ともかく神宮前会場に着いた。

四階まで行き、会場に小さな声で、ささやくよう、「こんばんは」といって入り、献金を入れ、交通費請求書に印鑑を押そうとしたとき、「考える人」をいただいた仲間が近寄ってきて、「ロダン、今日、司会をお願いします。」といつた。ミーティング前の静寂を感じて、一瞬、「えっ、なんなんだ」と心の中で思い、とまどつたが、同時にこの状況のなかで「司会」をといわれたわけだから、胸にジーンとするものがあつて、「はい、わかりました」

と答え、印を押すのを後まわしにしてリックを片隅に置き、私のトレードマークの黒のチョッキを脱ぎ椅子に掛け、直ちに、「時間になりましたのでミーティングを始めさせていただきます。アルコホーリクス・アノニマスは、経験と力と希望を分かち合つて共通する問題を解決し、ほかの人たちにもアルコホリズムから回復するように手助けしたいという共同体である。

AAのメンバーになるために必要なことはただ一つ、飲酒を止めたいという願いだけある。会費もなし、料金を払う必要もない。私たちは自分たちの献金だけで自立している。

AAはどのような宗教、宗派、政党、組織、団体にも縛られていない。また、どのような論争や運動にも参加せず、支持も反対もしない。

私たちの本業の目的は、飲まないで生きていくことであり、ほかのアルコホーリクも飲まない生き方を達成するように手助けすることである。」と読んだ。そして、「本日、仲間の配慮により司会進行をさせていただきますアルコール依存症のロダンです。にしき町グループです。」といつた。

会場が、「ロダン、にしき町」と唱和した。「どうなたか第三章をお願いします」といたら、若い女性の方が「はい、アルコール、薬物依存症のCですか。第三章、さらにアルコホリズムについて、私たちのほとんどは……。」と読んだ。「ありがとうございます」といって、「今日のHグループのミーティングはメダルミーティングです。Aさんが九ヶ月、Bさんが六ヶ月です。まだBさんはお見えになつていませんが、まもなく来られることがあります。さっそくですが、Aさんにメダルを渡したいと思います。」といつて、Aさんに

めで、型どおりのと思ったが、今日の司会をさせていただくにあたつて、あまりにも驚いた、いや驚愕、愕然といつていいくらい驚いたためか、司会をといわれた時、今日一日をテーマにと思っていたのに、なぜか、「今日のテーマはこの道で分かち合いをお願いしたいと思います」といつていた。「会場にたどり着くのに道を間違えてしまつて今日遅刻してしまいました。第五章のなかに

「私たちは、この道のあちこちで立ち止まつては道、アルコール依存症者としての歩む道、AAの道、もしかしてカラオケ道というのもあるかも知れませんが、考えられる道についてお話ししていただきればよろしいかと思います。また、テーマにとらわれることなく話されるのも結構です。」

といって、私の話をした。

分かち合いを始める瞬間に思つたトップの話

手は、当然Aさん。「ありがとうございます。仲間のおかげで九ヶ月、飲まずにいられて、こうしてメダルをいただいて……。仲間がいるから……。仲間と一緒に……。」と話されているなかで、飲まずに過ごした九ヶ月の、言葉ではいいつくせない苦しみや辛かつたことが、たぶん、涙となつたのか、ダイヤモンドのカケラがボロリと落ちるのを見たて、私の心の中の宝石箱をあわてて差し出して、こぼさずに受けとめることができた。と同時に思われぬ感動が胸に押し寄せてきた。

施設の中にいて、飲まない一日を過ごす時間、長い長い暗闇の時間は、まだ未知の世界の私にとって、計り知れない世界を思うと、飲まない一日の九ヶ月というものがダイヤモンドなのかも知れない。彼女の話が終るかならない時、Bさんが入ってきて、私の横に座つた。その時は、個性的で魅力的な女性がHグループにはたくさんいて、そのなかかただつて思つていた。

「では、Bさんが来られましたので、さっそく

「Bさんは、Bさんが来られましたので、さっそく

メダルをお渡ししたいと思います。」といって、彼女を見て驚ろいた。お互に、「あれ」といつて、「たしか」「そうですねえ」「病院で一緒だった」等、どちらかともなくいいあつて、あまりのものあり得ない事に茫然としていたが、あわてて、六ヶ月のメダルをお渡しして、飲まずに逢えた再会の握手を交わした。二番手の話し手は彼女だった。「……」何を話されていたのかトンと憶えがない。あまりにも思いがけない事が次々と起きて、頭の中を色々な想いが交錯して、それがイナズマとなって駆けめぐっていた。彼女は最後に、「今日は話がまとまらなくて、でも、仲間のおかげでこうして六ヶ月のメダルをいただけました。ありがとうございました。」といった。彼女の病院での歴発表の時の記憶は……。たしか、理知的で、とても素晴らしい話をされていたことを鮮明に思い出していた。そして、私が初めてのAAに行けたのは、彼女がここグループのミーティング場へ連れて行てくれたからなのだ。H駅でもう一人の仲間を待っている時、自動販売機でドリンクを買って、「私、AAの帰りにこれをいつも飲んでいるんです。」といつていたことを思い出していた。病院では、一行動一目的という規則があつて、まだ私はしばられていた。まもなく、駅前にあるコンビニで百円の五百ml入り缶コーラを飲むのが日課となってしまったが、今となつてはなつかしくなる計算になる。

彼女の話が終つて考えたのは、次は右横のチエアマンに話をしてもらつて、一人置きに一周し、そしてAさんの手前の人からスイッチバックしてから向かい合せに話してもらえば、最後はSさんとなる計算になる。

丁度全員が話し終えたところで二十時三十分になろうとしていた。ミーティングの途中で、右横にいたチエアマンに、メモで、「最後はハンドリン

グで小さなお祈りをして終りたいがどうか。」と聞いていた。その時、「今日はメダルミニーティングだから、お二人を励ます意味もあるからそれでお願いします。」とメモは書いていた。

「ミーティングを小さなお祈りで終りたいと思いますがみなさんお立ちになつていただきたいと思います。そして隣の方と手をつないで下さい。飲まない仲間がもつともつと飲まないよう、飲まない気持を手で伝えましょう。また、今日のおふた方のソブライティが永く続きますよう。小さなお祈りをお願いします。」といった。「神さま……。……賢さを。」二十名いた仲間が一齊にかかるく頭を下げ、「ありがとうございました。」と唱和してミーティングは終つた。

私がロダンの考える人をいただいた会場には、誰ともなく見合わせた飲んでいない二十の笑顔で溢れていた。

平成十三年三月三十一日記

### ものぐきが 百草園にて 春を食い 只野醉払

平成十三年四月十五日 日曜日 快晴

連雀グループの春のフェローシップは、春爛漫の百草園にて、お酒を飲んでいない澄んだ四十八の瞳が、散りゆく桜花を見ながら、お昼の食事と、園内の散策、ミーティングに、おまけの俳句、短歌会を楽しみながら、暖かな木もれ陽につつまれた雲一つない快晴の一日を有意義に過した。

なぜか集まりが悪かった。ロダンが百草園の入口に着いたのは十時四十分だった。仲間が四、五人のいで、おたがいに、さわやかに「おはようございます。」と挨拶をした。「みんな来ないなあ。」「場所がわかるかなあ。」「あと百三十メートルの標識の所からの急坂はチョットキツかったなあ。」

等と言ひ合つて、いたが、ロダンは「駅まで様子を見てくるよ。」と言つて駅へ向つた。急坂のところで男女の仲間が二人、息を枯らしながら昇つて

くるのに出会つた。二人とも背中にリック、手に握りながら、上へ、下へと別れた。あとでわかつたことだが、重たそうな荷物はお昼のお弁当だった。ながら、心をこめて作った愛情の重さだったのだ。

バイクが走ってきて、「おはよう。」との声が教授と一緒に走つて行つた。バイクの速度は急行ではなく準急の速さであつた。その後姿を見ながら誰だろうと思ったが、ヘルメット、サングラスをしていて、わからなかつた。

駅の手前で若い女性の仲間に出逢つた。「あれえ、教授と一緒に走つて行つた。バイクの速度は急行ではなく準急の速さであつた。その後姿を見ながら誰だろうと思ったが、ヘルメット、サングラスをしていて、教授を迎えてきたのだけれど、若い女性と一緒に歩く方がよっぽどましだと思つて、「みんなのところへ一緒に行こう。」と言つて、再び園へ向つた。とにかくキツい坂道だ。この往復で何組かのアベックと行き交つたが、とても愛をささやき合うという氣持にはなれないだろう。「ハア、ハア、愛してる。」「ハア、ハア、しんどいよ。もうやだよ。」「ハア、ハア、やだなんて言わないで。」「ハア、ハア、やなもんは、やだよ。」なんて会話になつて、もう、ぶち壊しになるに決まつている。

それでもなんとか園の入口にたどりついて、「ロダン元気だね。教授から電話があつて、競馬場に行つてしまつたらしいよ。大穴当てて、おいしい物をごちそうしてくれるんだって。」と仲間が言ったので、もう一度駅まで行くことにした。

今度は大勢の仲間がきていた。駅でお弁当を買おうとしたら、仲間に、「ロダン、たくさん用意してあるから買わなくていいよ。」と言われた。今回

はそれに甘んじることにした。本心は、弁当代が浮くのがうれしかった。

教授がかなり遅れるというので、七、八人もいただろうか、急な坂道をののしりながら園の入口を目指した。入口のところにいるはずの仲間がないので、中に入っていると思い、垣根囲いの入口を入って行くと、左手の方から仲間の声が、「こっちだよ。」と聞えたので、どんどん入って行つて、「どうも、どうも。」等と話していると、「お客様へ入園料を払つて下さい。」と係員の人に言われてしまつた。いま通つた右側に入門所があるので、気がつかなかつたのだ。仕方なしに、「どうもすいません。」と入る。ここが入口だと思わなかつたものだから。」

言い訳をして、三百円の入園料を支払った。仲間の方に気を取られ右側のそれを見落していたのだからしようがない。

そろそろ、百草園を紹介しよう。昔、お寺として建てられて、戦などで焼けたりしたが寿昌院という人が立て直したとある。明治時代に青木角蔵という人が、お庭を造つて百草園と名づけたそうだ。昭和三十二年からは京王電鉄が經營している。現在も豊かな自然を残す多摩丘陵の一角にそれはある。素晴らしい眺望が楽しめる園内には、松連庵、三櫻庵をはじめ、若山牧水の歌碑、松尾芭蕉句碑などが、四季の草木に彩られ、二月～三月に咲く

八百本の梅は見事で梅の名所でもある。最もわかつりやすい交通手段は京王線だ。もちろん京王百草園というのだから、それ以外に手はない。新宿から京王八王子行きの特急に乗り、明大前、調布、府中、そして聖蹟桜ヶ丘で各駅に乗り替えると次の駅が、「百草園」で、そこから歩いて二十分程のところにある。競馬好きの人のために書き加えておくと、競馬場へは、この沿線の東府中から、府中競馬正門前行きに乗ればいい。

やがて無事に教授もやってきて、お昼の食事を

ということになった。競馬場のお土産は建設現場で使うブルーシートだった。とにかく広い。これ

なら三十人は楽に車座になつても十分だ。丁度、今日の青空をブルーシートの大きさに切つて敷いた錯覚におそれ、まるで青空の上に座つている気持になつた。そんな気持のなかで食べた心地よい弁当や、おにぎり、お寿司や、くたものや、エビの唐揚げや、……そして、お茶、コーヒー、コーラ、なにもかもおいしかつた。飲まない仲間が春を食いつくして、満足が一杯になつた。やおら立ち上り、散策ということになつた。園内を歩いて、まるで木もれ陽と散歩しているかのようだつた。シャクナゲの花がその陽差しに向ける

て首をかしげていた。勢いよく吹き出してきた青葉に吹き飛ばされるかのように残り少なくなった桜花が舞い散るなかで、取つて替つたように、つじが、さつきの花が咲きほこっていた。これなら素敵な俳句もできる。短歌も詩もできる。指折り数え、それぞれの想いを考えぐらしながら散策も終つた。どの顔も明るい。そして陽気だつた。お酒を飲まないでもはしゃいでいた。

青空を切り取つたブルーシートに戻つて、ミーティングを始めた。そして作品の発表となつた。春の息吹に酔いしれて、感動ものの作品たちが次から次にと登場した。

緑萌ゆ　一年草ありき A A の仲間  
歩みきて　輪の広がりたる 春の坂  
つづら路を　あえいで望む 萌えの山 いすみ  
若菜見て　たらふく食つて 昼寝時 ごろにやん  
ベンチより　車座好きの 仲間たち ポツポ  
名前を知らない 桜を見つけたよ  
髪揺るる　若菜も揺るる 春の風 ポツポ  
春の色　眺めし後の 空は夏 ピピ  
園に来て 心春に 染まりゆく ピピ

新緑の 淡ききらめき  
飲まぬ仲間の 降りそそぎ  
笑顔ひろがる

花の色 輝くみどり 昨年より  
薄紅の 枝垂桜が 空に映え  
視覚いっぱい 春があふれる

足もとで wild FLOWER 微笑んで  
そよ風に 歌う木かげに 守られて  
飲まなくて 少し休もう また歩くために  
幸せ味わい 遇ごす日  
こうありたいと 願う私

百草摘み 頬にこもれ陽 若葉香ぐわ  
百草園 車座に笑顔楽しく  
ごちそうすくし 若葉 そよ風  
湿ったか 陽差し  
仲間生き生き 葉いらす  
夏を待つ こもれ日につす 仲間達  
百草園 AA語る 若葉かな  
木もれ陽と 散歩しながら 散りざく  
ロダンは天涯孤独だと思つていた

場ができた。AAミーティング会場がそれだ。ほんやりとほんわかと過したこの日、ロダンは、いつもミーティングが終つての帰りに一人で食べてゐるアイスを、明日の連雀グループミーティング会場へのお土産にしようと思っていた。

手土産の アイスのささやく 温かさ

かずや

平成十三年四月二十三日記

# 意見広告

1. 国会議員の皆様、国会活動御苦労様です。日本国憲法によれば全ての国民は人間的で文化的な生活を営む権利を有することになっていますが、ホームレスの人々は除外されています。全ての国民の中に「ホームレスも含まれる」ように改憲して下さい。解釈改憲でも可。
2. 国会議員選挙では所属政党の候補者名簿の上位（トップ）にホームレス（当事者）を載せて頂けますよう、御協力下さい。
3. ボランティアの皆様へ  
国会財政再建とホームレス救済のために以下の運動に御協力下さい。  
**①年末調整や確定申告に際して**  
医療費、生命保険料、損害保険料（火災保険等）、個人年金保険料、寄付金、住宅借入等特別、等の控除権の一部もしくは全部を放棄する。  
**②収入印紙（国税）、収入証紙（地方税）、公債を購入して廃棄する。**

以上、

五瀬四郎

## 垣根の恋人たち

台詞

そして、時は過ぎ、緑の風が吹きぬけて、  
青葉が胸に照り、垣根の花の散る頃は。

(一)

垣根の花が、今年も咲いて、  
春麗ら。

みどりの若葉が、風にゆれ、  
甘い薫りが、辺り一面に広がる、

\* ラツラツララー、ラララララー

通り慣れた、垣根の径、

かやぶき屋根の、お家が見える、

\* ラララララー、霞棚引く、

垣根の恋人、夢見る乙女、

泣いて泣かせて、花が咲く、

乙女心はチャーミング、

ラララララー、くもり後晴れ、

貴男に抱かれて、私は可愛い蝶になり、

花から花へと、密を求めて羽搏く、

\* ララツラツララー、ラララララー、

夢見る蝶々の、ふたり連れ。

(二)

垣根の花が、今年も散つて、  
秋深し。

夕焼け空には、赤とんぼ、

四方八方、そこら一杯に群がる、\*

通り慣れた、敷石径、

秋刀魚の煙、仄かに奥う、\*

夕餉間近かに、

垣根の恋人、恋する乙女、

燃えて燃やして、花が散る、

乙女心は、秋の空、水

くるり後晴れ、

貴男に抱かれて、私は恋する鳥になり、

可愛い小鳥の、ラブコール。

\* (一)と同じ

## 出船の港町

ちよいとせつない

台詞

さてさな汽笛鳴らして、波止場を後に、  
オルゴールの、鐘の音が、  
キンコンカーンと、鳴り渡る、  
ちよいとせつない、出船の港町。

汽笛鳴らして、波止場を後に、

オルゴールの、メロディーが、  
別れの合図を、又来るぜ、

ちよいと泣かせる、別れのブルースよ。

出船入船、港のかもめ、  
オルゴールの、鐘の音が、  
別れの合図を、又来るぜ、

ちよいと泣かせる、別れのブルースよ。

出船入船、港のかもめ、  
オルゴールの、メロディーが、  
別れの合図を、又来るぜ、

ちよいと泣かせる、別れのブルースよ。

出船入船、港のかもめ、  
オルゴールの、鐘の音が、  
別れの合図を、又来るぜ、

ちよいと泣かせる、別れのブルースよ。

出船入船、港のかもめ、  
オルゴールの、鐘の音が、  
別れの合図を、又来るぜ、

ちよいと泣かせる、別れのブルースよ。

出船入船、港のかもめ、  
オルゴールの、鐘の音が、  
別れの合図を、又来るぜ、

ちよいと泣かせる、別れのブルースよ。

弓削鴻介

# 精神障害者とホームレス

須藤 守

話を軸に、問題点を掘り下げてみたい。

\*コンチヤン \*男性 \*昭和27年生  
\*宮城県名取市出身 公立中学校卒業

「精神障害者とホームレス」このテーマの展示を、このキヤンペーンへ出すにあたって、精神障

害者の世界では、様々な反応がおきた。

(1) 「孤独死のない21世紀を!!」キヤンペーンで、ホームレスの方の為の身の上相談を企画し、相談ボランティアを募ろうとした。精神科のN病院を退職したケースワーカーの元部長Y氏に話を持ちかけようとして、病院関係の患者団体「Dクラブ」の会長S氏に仲介を依頼する為、S氏宅で話を切りだした。すると、集まっていた「Dクラブ」の面には、やにわに騒ぎ始めた。「ホームレスなんか！みんな好きでやつてんだっ！そんなのつ、ホットケエエイツッ！」と、口汚く罵る者さえいた。

(2) 「精神障害者とホームレス」という見出しが、インターNetのホームページ上に流れると、自称「精神病者」から、不快感を示すメールが来た。(3) この話の主人公である「コンチヤン」が、去年ホームレスになりかけた時、ホームレスの仲間？たちと交わらなかつた理由をたずねると、コンチヤンは「はんだつて、オレ、ホームレスでねえもの」と応えた。コンチヤンは、身の回りのことさえロクに出来ない、重度の精神障害者である。

以上の共通点として、精神障害者の屈折したプライドと、ホームレスの方に対する優越感や差別がある。

一方、ホームレスの方々は、精神障害者をどう思っているのか。実際のところ、日本でもアメリカでも、精神障害者とホームレスは、とても微妙で深い関係にある。今回は、ホームレスになりそくなつた精神障害者の「コンチヤン」の身の上

仙台市内の公営住宅で、両親と6人の兄弟姉妹と暮らしていた。中学の時は学級委員を務めるほど優秀だったが、在学中に精神の変調をきたして、近くの私立精神病院Aへ入院。脱走をはかつた。

入院回数3~4回。病名は告知されておらず不明。精神科薬物が全く効かない患者。一時期横浜市内で働き、同棲生活も経験したが、結婚には至らなかつた。その後帰郷して親元に。しだいに痴呆的症状が出て、人間能力が低下。労働能力を失う。

一方、同居中の妹の一人も発病。同じA病院にかかる。また、別な妹とも次いで死別した。他の姉兄弟たちは、精神病患者の兄妹たちの面倒見を嫌がり、相次いで家を捨てて出ていった。父母と妹の4人暮らしになつた。

昭和58年から一家4人共生活保護を受給。昭和の末期、父病死。平成3年末、妹が入院中のA病院から散歩に出たまま帰らず。近くのY沼で水死体となつて発見される。平成5年、母病死。1人の暮らしとなる。同じ市内でも遠い場所に住む2番目の姉が来てガスを止め、コンチヤンと母の通帳や印鑑などを持つていつてしまい、生活保護の受給や公共料金の支払いが、姉の管理となる。しかし姉は、全く面倒を見に来なかつた。約半年で、ゴミ屋敷となる。

姉は公共料金や家賃を口座に払わず、電気は止められ、NTTは加入権没収となり、家賃も累計で1年数ヶ月分滞納した。

平成10年、仙台自由クラブ結成後間もなくコンチヤンが入会。精神障害者同士の助け合いの事業始まる。コンチヤンは週1回、遠い姉の家に通つて1万円ずつ受け取り、他に1万円位、月あたり

計5万円余りしか受け取つていなかつた。生活保護受給額は月10万円以上あつたので、その半分以上が姉の手で所在不明となる事態が、約5年続いていた。仙台自由クラブは、福祉事務所や姉の責任を追及して交渉を進め、通帳や印鑑を取り戻した。

平成11年春、コンチヤンが住む自治会のJ役員のH氏が、「仙台自由クラブを吊るし上げた。あのゴミ屋敷をなんとかしろ。あんたち金預かりで儲けんのだろ、責任あんだろ！」ゴミ屋敷対策を、県の担当部局や福祉事務所や保健所に何回申し入れても、口ばかりで全く動かなかつた。かつてんだろ、責任あんだろ！」と、同じ町内にある同クラブに対して激しい怒りを噴出させたのだった。

住民らの実力行使による追い出しを恐れた同クラブは強引なゴミ撤去を決行。2Kの室内一杯、人の胸の高さまで積み上げられ、総て腐るものは腐り、サビるものはサビ、糞尿まみれでドロ・ドロになり、堆肥や土と化したゴミの山を目の当たりにする。これは本人の責任だけではない。上の階に住む痴呆症らしい一人暮らしの老人が部屋を水浸しにし、汚水を本人の部屋に長期間、落とし続けた結果である。

約1ヶ月半にわたる「獅子奮迅」の重労働により、ゴミ撤去に一応成功。その結果、布団の果てまでなくなり、何も残らなかつた。一番下の床も腐つて落ちかかり、畳も半ば土と化し、上下水道も詰まつていた。建具やドアノブも壊れ、照明器具もほぼ壊れてなくなつていて。

この惨状の一部は、写真として残つているので、今回展示した。

総ての家財道具？を失つたコンチヤンは強いショックを受け、家を出た。約20日余り路上で暮らし、毎日早朝の一時だけ、人目を忍んで家に帰る生活をした。この間生活費の受け渡しはどこおり、ゴミあさりなどをして食べていた

とみられる。

このまま行方不明が長引けば生活保護は取消されてしまつた。仮に退院しても、コンチヤンのとなり、公営住宅も自動的に退去という事になつて、住まいを失ない、本物のホームレスになるところだつた。精神障害者が親亡き後に自分のことが自分で出来ずにホームレスとなるパターンの一つかである。権利擁護や生活支援制度の不備が招いた結果といえる。

結局受け皿となつたのは、私立精神病院Aだった。コンチヤンは、茶色く煮しめたよつたボロボロのTシャツにヨレヨレのジャージの長ズボン、擦り切れた防寒サンダル、という見すばらしい姿で、A病院に出現した。「このままでは、栄養失調になつてしまふから、入院させてくれ」と申し出、本人の自由意志による「任意入院」の形態をとつた。1ヶ月の予定だつた。

それから6ヶ月、退院出来ずに、さらに3ヶ月延長。亡き母が、10年満期の貯金を何口も残しておいた事がわかると、姉夫婦は突然A病院にやつてきた。遺産相続放棄の書類に名前を書かせ、印鑑は後で勝手についたらしい。病院スタッフが駆け付けた時は既に手遅れ。親族による使い込みや背任横領、詐欺、窃盗に対し、他人は無力である。こんな中で姉の家に厄介になり、2泊3日の方便的退院。再入院となる。

ささらに6ヶ月。退院出来ずに3ヶ月延長。今年（平成12年）いっぱいで保護の家賃分は切りの見込み。福祉事務所の見解によると、「6ヶ月以上のお入院者またはその後3ヶ月以内に退院の見込みのないものに住居はいらない」との考え方。精神障害者のみならず、健康上の弱者を、ホームレスの側へと押しやるような制度である。

#### コンチヤンが退院出来ない理由

A病院は、私立精神病院の中でも営利目的が強いと評判であり、長期入院が目立つている。コンチヤンは意志が弱く、退院を強く主張できない。主

治医に引き留められているうちに、病院の生活になれてしまつた。仮に退院しても、コンチヤンの生活を助けるだけの社会資源が不充分である。

非常に重い障害者を対象とした救護施設と、回復した人を対象とした援護寮の中間的施設が制度上は何もなく、両者の中間に位置するコンチヤンには、入る施設がない。本人は縛られる事を嫌う自由人なので、無理に施設入所をさせても、不本意な環境だと自覚すると、施設を飛び出しホームレスになる恐れがある。

#### ホームレスになりやすい現状

コンチヤンと似たり寄つたりの精神障害者は、他にも多いと思われる。本人の公営住宅の近辺に調になつてしまふから、入院させてくれ」と申し出、本人の自由意志による「任意入院」の形態をとつた。1ヶ月の予定だつた。

それから6ヶ月、退院出来ずに、さらに3ヶ月延長。亡き母が、10年満期の貯金を何口も残しておいた事がわかると、姉夫婦は突然A病院にやつてきた。遺産相続放棄の書類に名前を書かせ、印鑑は後で勝手についたらしい。病院スタッフが駆け付けた時は既に手遅れ。親族による使い込みや背任横領、詐欺、窃盗に対して、他人は無力である。こんな中で姉の家に厄介になり、2泊3日の方便的退院。再入院となる。

#### 精神障害者がホームレスになりやすい理由

精神障害者がホームレスになりやすい理由は、亡き母が残してくれた家を廃屋同然にして、一人で暮らしている精神障害者がいる。こちらは「ゴミ屋敷」ならぬ「お化け屋敷」だ。つまり、精神障害者には、いつホームレスになつてもおかしくない「崖っぷち人生」の者が多いのである。そして実際に仙台市内では、精神障害者らしき「ホームレス風の人たち」をしばしば見かける。

#### 精神障害者がホームレスになりやすい理由

精神障害者がホームレスになりやすい理由は、労働能力が無いか、非常に弱い者が多い。すなわち、親などの面倒を見ててくれる者がいなくてしかも、障害基礎年金や生活保護などの社会保障が受けれない、簡単にホームレスになつてしまう。

#### あなたもなるかも知れない精神障害を持つたホームレス

精神病は遺伝だけでなるのではなく、また本人の意志に関係無く、努力根性にも全く関係なく発病する。いわば貧乏クジを引くようなものである。だからあなたも、いつ精神病になつて経済的下層階級へと転落し、ほんのチヨットした運命のズレによってホームレスへと追いやられるかもわからないのである。

ホームレスに対しては「好きでやつているだけ者」といつた偏見や誤解があり、精神障害者に対する「特別な人だけがなる急け病」といった誤解・偏見がある。ですがこの機会にぜひ「精神障害者とホームレス」の問題を、「自分自身もいつ直面するかも知れない身近な間違」として考えて頂きたいものである。

須藤守（仙台自由クラブ会長）

仙台自由クラブは精神障害者自身の助け合いを軸に、共同作業所の運営などを通じてその自立と社会的理解を求めて活動するグループです。昨年12月、仙台市で開催された「孤独死（ろじょうし）」のない21世紀を!!展に参加。本文はその時のパネル展示から転載したものです。

アメリカではひとこころ医療費削減の為、精神科ベット数を急激に減らした。その結果、生活支援計画も無いまま退院させられた患者の多くが路

頭に迷つてホームレスとなつた。それを救つたのが、数多くあるNPO（特定非営利活動団体）だつた。日本では現在そういう形のホームレスはあまりないが、病院に長期入院した結果、住居を失い、退院するべき家の無い「隠れホームレス」は非常に多い。

また、アルコールや薬物依存症を併発し、精神病を持ったホームレスが多いのもアメリカの特徴だという。日本でも、アルコール依存症と精神病を併発したホームレスが少なくないようだ。

# みどり まゆ 「春」より

新潟県新潟市の、  
信濃川が海へ注ぐあたり、深田  
からアタマにさむ「春」おしゃべ  
りと申すよ。

曲々、櫻の日でスキーをする。  
信濃川を越へながら、前橋を渡る。山越えで、一般の車では重い車両代  
わざのよへり。それでもどうかうが「こじゅ、こじゅ」という  
声が聞こえてくる。(1)(2)(3)(4)

「実際にスキーしたのは、た、た一度。当時は時代の友人に連れられて行つたのだ。

初めて板をはじて降り立つた白銀の世界。つかれた私は少しの  
助言でもうい、滑り出した。何も知らぬ初心者といつやうは、  
飛び出し、素晴らし、結構、つましく合ひ、滑、こじたのだ。  
しかし露天風な初心者にも、しばらくすると次の展開が訪れる。  
何度も転ぶ内に「転ぶ四ヶのマエー!」が出来てしまつた。

「ギンとまた転ぶやうな…」、この気持ちのせいで、余韻に転ぶ。

転ぶになると転ぶのが、転ぶが、転ぶが…もうシロ印。

足かねたくなく、友人が一緒に滑つてくもつた。「だから、た、  
どうなるんじ。」と田舎へんクツ者の私だが、今一度、飛つ出しだ。  
「あがんかも…」と信濃川にならかげたその聲、「こじゅ、こじゅ、このまま、大丈夫」と、  
勝りから声がした。友人の声のあまりの力強さに、なぜか「こ、こじゅや」  
といふ声になつた。(ハングル者の私は回転にアホみたいに単純でもあつた。)

結果、…やせつ転ぶやへは転ぶ、ぐだぐだなんややん。土ど、転ぶで頭痛になら、こじゅ、こじゅ、  
こじゅ飛ぶんやじ。おるやうやうが力強さが、Nの事、強く印象に残つた。  
「こじゅややうが力強」という場面になら、私は頭の中でスキーをする。「こじゅ、こじゅ」という言葉が心に  
蘇きながら、前傾姿勢をとる。こじゅが転ぶかはもううんわからぬ。土どサム転ぶやも、ひどく想つ取れる。

中西橋 美人香



東京

第13卷

路上

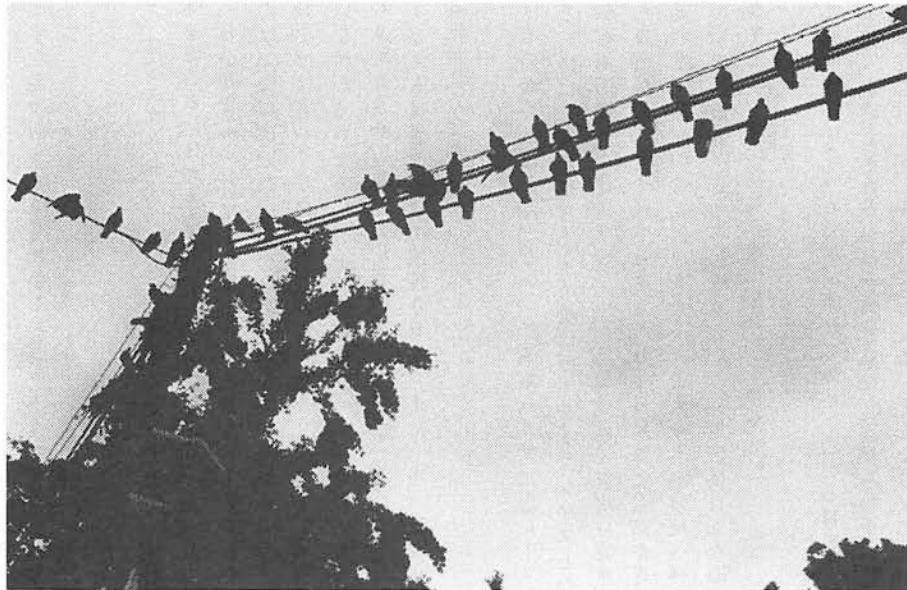
散歩

ふらり

写真・岡田知子

文・笠井和明

「ふらりと目黒」



「東京路上ふらり散歩」も「露宿」と同様、二年もの間、北へ行ったり、東に行ったりと、ふらふら定まらずに歩き続けて来た。気がつけば東京のあちこちの街をいやはや歩きに歩いた。尤もそれでも、まだまだ歩き足りないと思うのだから、この東京の街は何やら魔物でも住んでいるのである。



「ふらり散歩」をする時は、流石に地図と磁石は持参するものの、当たりをつけた街を下調べもせず、足の向くまま歩くのがお決まり。地図は後から歩いた道を確認するだけのものでしかない。目的の場所が最初からあら記ではないので、道に迷うのは当たり前というか、常に迷いながら歩き続ける。

世の中、デジタルで直線的な考え方方が主流であるが、人の営みというのは決してそのようなものではない。人の営みの遺跡たる都市の歴史もまた同じ。彷徨い歩き、過去に縛られ、行ったり来たり、戻つたり進んだりしながら行くのが、普通と言うべきだと思うのである。おっちゃん達を大量に路上に吐き出し、社会的な排除をし続けるこの東京を検証するには、だ

から、こうやって路上と、そして都市と真摯におつきあいをしてふらふらするしかないのです。彷徨という循環の繰り返しの中から、ある日マグマは突如噴出する。直線的な思考回路の方々はロケットのよう宇宙の果てまで、ただひたすら突つ切つて後腐れなくどこかへ行つてもらいたいものである。

それはさておき、露宿二周年記念のふらり散歩が向かった先は、JR目黒駅。もちろん意味などこれっぽちもない。ただ、なんとなく…。

目黒といえば「お不動さん」。目黒不動尊は江戸庶民信仰の西の横綱。もちろん熱心な信者はいたに違いないだろうが、大半は物見遊山の日常逃避の小旅行の地。おまけに富みくじなどもやっていたようなので、幕府公認のカジノのみみたいな所か。ちなみに明治時代になり、仏閣は軽んじられたものの、その代わりかどうか、東京初の競馬場がこの目黒の地に設置され、第一回の日本ダービーも目黒競馬場で開催された。まあ、ギャンブルには何かと所縁がある地のようである。

もちろん、今はその面影はほとんどない。伝統ある目黒記念レースの格付けが下がると同時に、恵比須ビル工場はガーデンプレイスとなり、その余波が目黒駅前も高層ビル建設ラッシュ。その昔はオンボロ電車がことと走っていた目蒲線も、今や地下鉄乗り入れで目黒線と名前を変え、奇麗な電車に様変わり。哀愁の目黒区庁舎も千代田生命本社跡地へ移転も決まりと、隣の港、渋谷、世田谷に張り合い、目黒区は目立たぬ区からの汚名挽回、近年急ピッチに高級都市化を計っている。

起伏の激しい大地の底にいくつもの川が流れ、竹林が広がる目黒の自然、そしてさまざまな旅人を迎えたかつての行楽地、人混みの中に隠れるようひつそりと暮らしていた貧しき人びとの生活。そんな目黒の姿が今や何もかもなくなつたのかと言えば、決してそうでもない。人の執念というか、土地の執念と言うか、人の営みも、都市の歴史も七転び八起きである。

目黒駅から不動参りで栄えた権之助坂を降りる。こちらの雑居ビル街は駅前の一等地に居座る小商人達の牙城。駅前にドンと戦後の跡が残つてしまふのは山手線駅特有の焼跡と闇市の記憶。駅を中心には人は集まり、人は移動する。車社会以前の都市の在り方である。現代の路上のおっちゃん達もこれまた同じ。

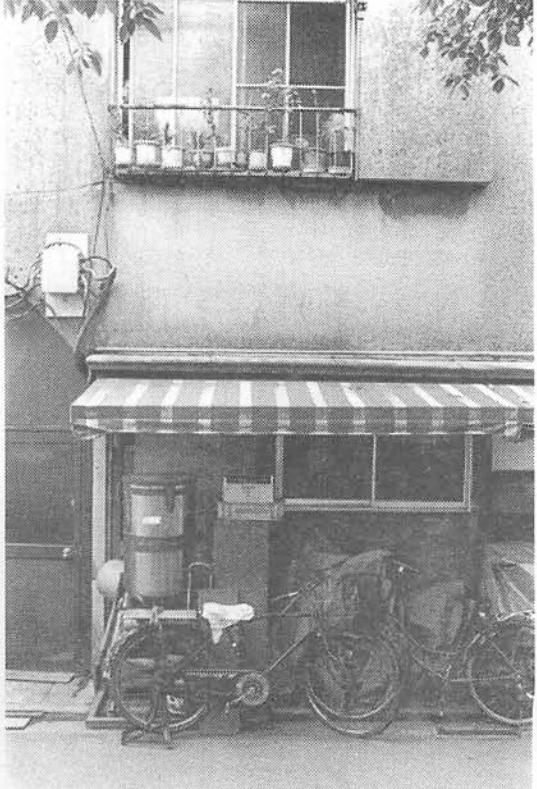
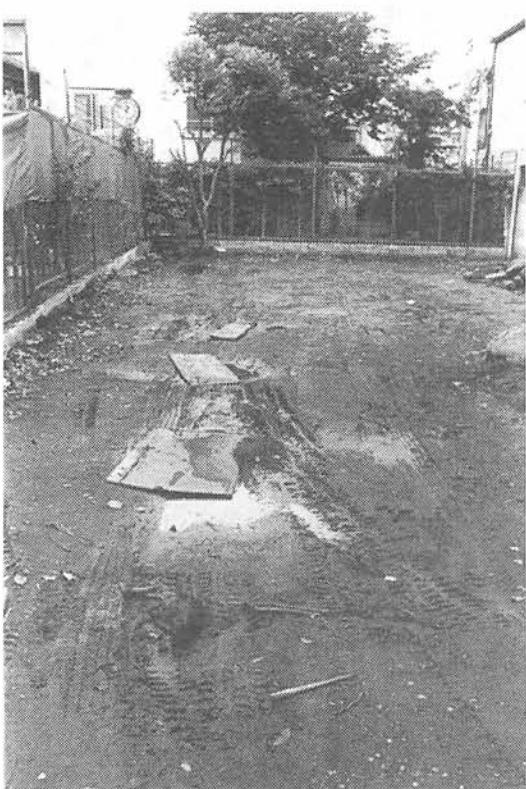
権之助坂を降り、目黒新橋の手前で右手の細い路地に入る。丁度目黒川沿いの谷底の路地。お決まりのように廃屋があり、都営団地があり、近年は清掃工場までもがこんな土地にでんと建つ。清掃事業の区移管で清掃工場が各地に建てられてはいるが、その姿は渋谷にせよ、目黒にせよ、どうも物足りない。嫌われ者の清掃工場だからこそ、池袋の煙突のようにえも言わぬ風情と風格が欲しいものであるが…。

田道広場公園の裏手を回ると目黒川。白く濁った都会の川。水の都の面影はまあ、多少は残つている。田道というからは、その昔はのどかな田園風景だつたのだろう。將軍の鷹狩りに「目黒のサンマ」はそんな時代の物語り。尤も傍若無人に田畠を荒らす將軍様ご一向は、百姓にとつて迷惑千万な乗客だつたようだ。

田道橋を渡り、山手通りに出る。都内有数の基幹道路だけに広い車道に車はひきりなし。車が主人公として作られた道路というのはどこか冷たく威圧感がある。

大鳥神社まで戻り、金比羅坂を昇り、目黒不動の裏参道の路地を行く。参道にしては只の普通な住宅街の路地。路地が真直であることだけが、かつての参道を偲ばせる。

起伏の激しく宅地が入り乱れる土地というのはゼネコンの開発屋からは疎んじられる。史跡のそばとか、穴を掘つたら遺跡が出そうな場所もまた遠慮される。そんな合理性を追究する思考をあざわらうかのよう荒れ果てた空き地がボツン、ボツン。土地が時間の流れを見守つているのである。目黒不動の裏門から入る。かつての大賑わいとまではいかないものの、ちらりほりと、老婆が手を淨め願をかける。人の心の中は大火端の中に立つ不動明王と同じく忿怒のかたまりである。

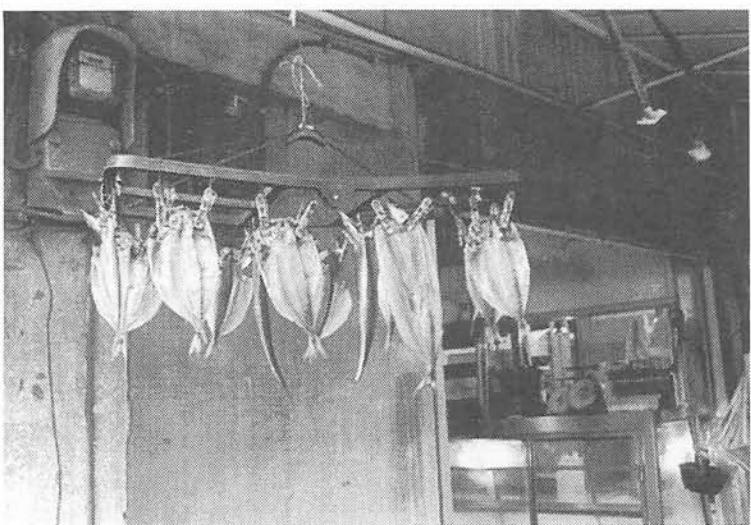


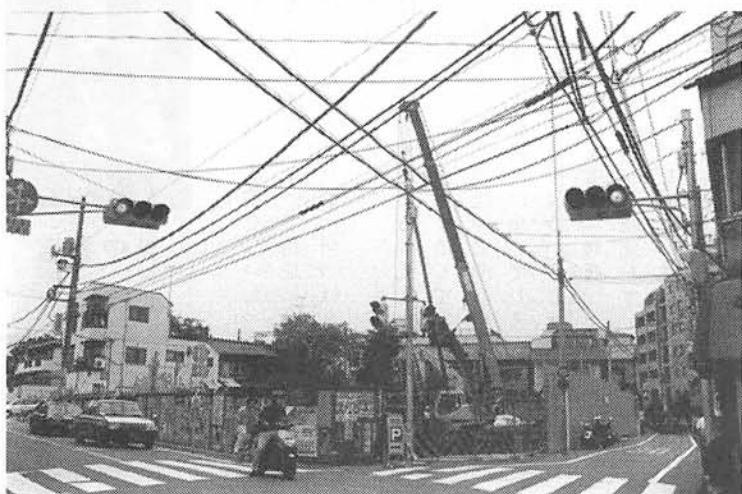
不動信仰というのは、だからこそ世俗的な信仰になつたのである。ライオン髪のどこかの首相と似てはいるものの、表情はもつと激しく破滅的である。忿怒とご利益はどこでどう結びつくのか論理的にはよう分らないが、首相人気もこれと似たりよつたり、權威としてではなく、單なる力としてではなく、忿怒にはどこか心が惹かれてしまうのだろう。人間臭さは建前の真理よりもよほど眞実味がある。

やり直しが出来なかつた殺人犯権八の比翼塚が不動明王の視線の中にひつそりと建つてゐる。これを見て何を思うのか？誠に人の心は複雑である。

表門から不動商店街の坂道を西に登る。骨董屋や金物屋とどこにでもある門前の中町商店街。林試の森公園をかすめ通り、そのまま行くと目黒線武蔵小山駅前に辿り着く。戦後のパラックをそのまま受け継いだような飲食街がこの小さな駅前にある。行楽地と歓楽街はどの街にもつきものであるが、たとえそれが信仰の場であつても世俗が勝る。多様な人が集まる都市から世俗パワーというものは、その多様さ故、決して消え去りはしないからである。

商店街で昼食を取つた後、目黒本町の住宅街に入る。目黒川、呑川に次ぐ水系である立会川がかつて流れ肥沃な農村地帯であったこのあたりも、今は見渡す限りの住宅街。埋め立てられた立会川の緑道に沿つて街中を歩く。街の起伏はなくなり、サレジオ教会のある碑文谷あたりに来ると、そこはもう高級住宅街。その果てにひときわ鬱蒼とした場所があるので行つてみる。





と、すずめのお宿緑地公園とそして、その裏にある碑文谷八幡宮の森。

すずめのお宿緑地公園で一服。すずめは居らず、竹林の中を鳥が飛び交う。公園の一角に江戸中期に建てられたという古民家が区の指定文化財として保存されていた。見学自由、無料。しばし古き時代の庶民生活を想う。

目黒は、派手さはないが、静かな街である。静けさの中につづつての喧噪とした歴史をどこか無理に封じ込めている街。統計で見ると二十三区の中で路上で暮らすおっちゃん達の数が一番少ない区もある。それでいて管理し尽くされた街かと言えば決してそうではない。かつては夢を求める庶民で賑わった街も、今やその夢すら求められなくなつたのか、それとも何かで隠しているのか。まか不思議な街である。

目黒通りの裏道をとぼとぼと歩く。あじさいがひつそりと咲くこの季節。ふらふらするには格好の陽気。

理想の直線を求めたとしても、実際何ごとも単純なものではない。

やけに東横線の駅が遠いと思つたら、何とひと駅分歩いていた。

鷺番という往事を忍ばせる地名に標識は変わり、ごちゃごつちやとした街並みの学芸大学という駅に着いた。大学が近くにあるかと思いきや、その大学もはやこの地にはないと言う。人騒がせな駅名ではあるが、これも目黒ならではの奇しの術か。

## 露宿の本棚

私も路上の医療相談屋（自称）をはじめてから7年ぐらいたつ。新宿中央公園でも「病気やケガの人は我慢しないで相談に来てください」と感じでやっている。だけどこれが、やっぱり治らない病気というものはあるんだよ：いろいろと。

ところが、ブラック・ジャックは、大病院の権威ある「大先生」がさじを投げた病気でさえも、その神技のごとき手術で治してしまったのだ：現在の医療では治せない難病も、文明の進歩とやらがつくり出した問題も。彼も人間だ、自分自身が病気になってしまったこともある。そんなときには、自分の手でメスを振るい、自身の開腹手術までやってしまうのだが、これではまるで「切腹」だ。おまけに患者の硬く閉ざされていた心をも癒したり、断絶していった家族関係を修復する人情劇までやってのける。しかも、彼は無免許で自称「モグリの医者」であるところが何ともカッコイイ（医学部は卒業している）。もちろん、健康保険は使えない。金持ちの患者には数千万～1億円位の莫大な治療報酬を要求する。しかし、彼は患者を選ばない。何の因果か偶然に出会った人、彼の神技にすがってきた人には、逃げないでとことん向き合う。持たざるものからは、最善の治療を尽くしつつ1円も受け取らないことがあるが、「フツフツ。なーに、とれるところからふんだくつてやるさ」。そして彼は、医療の業界のくだらないヒエラルキーだと世間の権威なんてものは断固として拒否しているのだ。何者にも媚び諂わず縛られること無く、「それでも私は人をお

生きるために!!」と世界を股に掛け、メスを振るう孤高の天才外科医：ブラック・ジャック。

彼は言っている「この宇宙の中で、人の一生なんてゴミのようなものだが、それでもちゃんと歴史の中で決められたとおり生まれ、いつかは死んでいく：もし人のいのちを救うことで、その人の人生をかえたなら、もしかしたら歴史もかわることになるかも知れない。：私たちは星を動かすようなもんだ」と。ブラック・ジャックでもそうなのだが、手塚治虫の作品の根底には、すべての人に平等な「いのちの尊さ」とか「人間愛」などのテーマが流れているのかもしれない。

私はたしか小学生の頃、従兄の部屋の本棚に並んでいたこのマンガをむきぼるようにならうに読んだ。私自身、幼いころから持病の喘息のため、発作のときは夜中に病院に担ぎ込まれたこともよくあつた。実際のところ、呼吸が詰まりそうな寝ても座つても立つても苦しかつた。小児科のやさしい（と感じる人もいた）お医者さんや看護婦さんにもずいぶん世話になつたものだ。そんなこんなで医者とか医療の仕事には憧れを抱いていた：何の因果かご縁もあつた。私の通院していた病院では、夏に喘息の子どもを集めたキャンプもやっていた。森の緑、星の夜空とキャンプファイア、同じ病を持つ仲間等々、いい思い出はたくさんある：未だ私の病気は治っていないが。その様なことも医療の役割だらうと考えて、今の仕事をやつていてるつもりだ：日々是修行。

それにしても、治らない病気の人がいると、私ごときは何と声をかけてよいのやらグルグル右往左往してしまつてているのだが、こんなときブラック・ジャックが颶爽と登場してくれたなー、なんて思つてしまつこともある。もし彼が現れたら、その場で手術をさっさとやつてのけて、治療費は石原慎太郎のところにでも取り立てに行くだろ。彼は言つて、

手塚治虫  
『ブラック・ジャック』  
1巻～12巻

秋田書店

末永力ヲル

# 読者のページ



読者のページは「露宿」の自由投稿スペースです。御意見、御感想、編集部への質問など「ろじゅく編集室・読者のページ宛」にお送り下さい。

池田幸代様

「露宿」第八号で「光ほのかなれども？二葉保育園」と徳永恕についての書評を読みました。平成十二年十月十四日、親しくしている星野達雄氏が社会福祉法人二葉保育園二葉乳児院のパンフレットを持って来ました。野口幽香、徳永恕の写真入りで「わが国初の母子寮『母の家』を併設（これは徳永の創案）。（昭和六年）にわが国の福祉の祖といわれる徳永恕が（二代目）園長に就任。」（）内は追記、とありました。

早速、現院長の梅森公代様に電話で確認しました。全くその通りであることがわかりました。そしてホーメレスの雑誌（露宿）で取り上げられたことに興味を示されました。私は「今から百年前」のことなので、そんな保育園は無いのではないかと思つていたので驚いています。

なお、私は昭和天皇と香淳皇后（良子皇太后）の幼稚園時代の先生で、当時すでにお二人の御結婚を予言していた野口幽香先生のことを調べているうちに「徳永恕」さんことを知りました。野口幽香は三笠宮崇仁殿下（澄宮）の卒園を待て学習院幼稚園を退職（大正十一年、一九二二・四・十一）しました。自民総裁選に出馬している麻生太郎氏の妹さんは三笠宮崇仁殿下の息子さんの寛仁親王夫人です。野口幽香は貧民の子も、華族の子も分けへだてなく教育しました。

妙高高原町赤倉温泉には香淳皇后（久邇宮家）の別荘がありました。戦後久邇宮家はリストラされ私達と同じ平民になりました。

私の義母は赤倉温泉で生まれました。（一九一六・十・十四）久邇宮家がリストラされたのは一九四七・十・一四です。星野達雄氏が二葉保育園のパンフレット

トを持って来られてのも十月十四日、義母の誕生日も十月十四日と三つが重なったのも、何かの「えにし」なのかも知れません。星野達雄氏からは、上笙一郎、山崎朋子両氏は御夫婦であることも教えて頂きました。星野氏は元東京YMCア主事、二葉保育園の院長梅森公代氏とも旧知の間柄だそうです。

参考文献 「野口幽香の生涯」 見出寿美子 キリスト新聞社

「良子皇太后」 河原敏明 ネスコ／文芸春秋

五瀬四郎 二〇〇一、平成十三年四月十六

## ろじゅく編集部御中

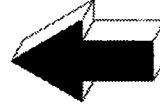
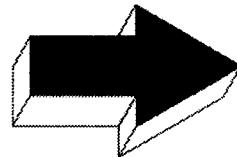
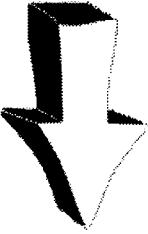
「露宿」ご恵贈いただき恐縮しています。作品も増え内容が次第に充実して、感銘深く読ませて頂いています。「岡山にはホームレスの人があまり、色々な話が出ました。「岡山市はホームレスの人が来たら相生までの電車賃を与えて大坂に行くよう指導する。」というのが実態のようです。「住所がないから保護が出来ない。」といふのは困ったもので私自身、生活保護をとるために、住所を私宅にし約一ヶ月余部屋を貸した経験が二、三度あります。

ホームレスの方の「人権復活活動」は焦眉の課題です。どこの自治体にも「仮設住宅」と「保護申請」を直ちに実施できる体制を要望していきたいものだと思ってます。少額のカンパで申込ありませんテレビホンカードも役立てばと思い送らせて頂きました。くにさだきみ（編集部より）

テレビホンカードは入院した仲間の連絡用として使わせてもらいました。ありがとうございます。東京では「ホームレス自立支援法」を議員立法として作らせる運動が進んでいます。さまざまな支援活動のがなりの中、全国的にホームレスの「人権復活」が計れるようにしていきたいものです。

# はり師いが丸の 肝心かなめ

はり師いが丸



ひと月おきに締切がやってくる露宿の締切が間近に迫ると、いつも、心を奪われるような事件がありませんようにと願う。そして何より自分を卑屈に追い込むことのない情態でありたいと思う。にもかかわらず、今回も平静とはほど遠い情態のまま、締切を過ぎて已に一週間。

言い訳はこれぐらいにして、本題。今回はご無沙汰している身体の話。

昔のお医者さんは、よく身体を触ってくれた。お腹をおしてくれたり、胸を叩いてくれたり。手が触ることは安堵を与えてくれるが、お医者さんは触ることで、患者の情報を得ているのだ。私たちもこれまたよく触る。やはりお腹の張り具合を診、両手首の脈を診る。そして舌を診る。

舌は、形と色、そしてコケの具合を見る。紅いか白いか、大きいか、先が細っているなど見て、その人のはらわたの具合を判断する。正常の舌は淡紅薄白色という。無着色のたらこを想像していただければよいだろうか。舌は鏡で容易に見ることができるので、毎日見ていると、自分の健康管理にも役立てることができるので、思い出したらベロを眺めてみて頂きたい。

脈については、熟練を要するのだが、速度だけを診ているのではない。両手首の脈計六ヶ所をおさえ、臓腑の調子を確認しつつ、脈が沈んでいるか、浮いているか、強すぎないか、弱々しいか、滑っているか、渋っているか等々、その人の元気の具合、血の流れ具合、水分の流れ具合を診ていく。

普段ため口をきいている人でも、一度その人の舌と脈を診てしまうと、「やっぱりこりや酒を止めてもらわないと」とか、「ああ、この人はこんな身体で頑張ってきたのか」と切なくなることがある。脈も舌もうそはつかない。照れ隠しもせず、飾りもしない。初めて会ったばかりの人でも、舌と脈を診れば、ぐっとその人は近くなる。知らなかった内面を初めてみてしまった瞬間と似ている。

露宿のこれも、それぞれひとりひとりの、舌であり、脈であると思っている。仲間の息吹そのものである。時に切なく、時に力強く、梅雨には梅雨らしく、みな、所詮人の肚から生まれた、自然と人の影響を受けやすいヒトなのだ。

「のたうちまわりを共にせん」である。

## 祝！露宿(ROJUKU)2周年!!

1999年6月に創刊号を発刊して以来、隔月刊行を守り続け、今13号でまるまる2年と相成りました。この手の同人誌系文芸雑誌は3号か4号統けば「よく続けられた」と言われる文芸誌冬の時代に、細く長く発刊し続けられたのも、様々な形で支援して下さった方々、そして読者、投稿者の皆様方のお陰です。編集部一同この場を借りて御礼申しあげます。てな事を書くと「ついに廃刊か」と勘違いなさる方もおられるかも知れませんが、「露宿」はまだまだ続けます。何故か？「本誌は路上から言葉を発することを目的として創刊される。野宿する人々も同じ人間であることを言葉をもって明らかにすることを目的とする。」(露宿創刊の辞) この目的がまだ達成していないからであります。生きている証は言葉です。心搖さぶる言葉がない世界では生きる希望すら生み出され得ません。露宿は路上に希望の明かりが灯る日まで、のたち回りたいと存じます。今後とも宜しくお願ひ致します！

次号14号は8月25日発行予定です。

原稿締め切りは7月31日必着にてお願いします。

### [露宿定期購読の御案内]

路上文芸総合雑誌「露宿」はもちろん全国の本屋では売っていません。毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読8回分 5000円（郵送費込み）

定期購読4回分 2500円（郵送費込み）

一回ごとの購入でも大歓迎。一冊送料込みで660円となります。その場合は御面倒でも継続購読を連絡して下さい。

### 申し込み方法

郵便振替用紙(00160-6-190947ろじゅく編集室)に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい(発行ごとに郵送します)。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円(いずれも送料込み)となります。

### 編集後記

「今年もさ ひと夏の…とか 言っちゃって  
ただただ暑く 気づけば秋かー？」  
桜が散ったかと思ったら、梅雨到来、ぎらぎらとした夏へ突入。と、慌ただしく過ぎていく毎日。道端のあじさいの露や雷鳴の響きに心傾ける時を大事にしたいものです。今度、お会いする時は夏の終り。ひと夏の…があったかは次回ご報告いたします。とかなんとか言っちゃって…。新世纪最初の夏、お体大切にお過ごしください。(お)

### 露宿ベン俱楽部短信

今号も府中の河川敷や福岡の獄中など新しい仲間を含め、引き続き多くの仲間が投稿してくれました。「露宿」の輪は広がったりしほんだりと誠に不安定ですが、表現したい時に「場」がある事は、それだけお互いの励みになります。普段独りでも「露宿」の中では一緒になります。雑誌という名の露の宿です。

露はつゆでも梅雨に入り、体調の崩し易い季節となりました。健康第一でお互い頑張っていきましょう。

### 露宿バックナンバー

### 在庫一掃セール好評継続中！

露宿バックナンバーは創刊号、3号、5号、6号、7号、8号、9号、10号、11号、12号の在庫があります(2号、4号は売切れます)。限定1000部発行の印刷物ですのでお求めはお早めに。バックナンバーに限り1冊300円(3冊以上は送料無料)の一掃セールをしています。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。(尚、在庫が切れた場合はご容赦下さい)。

# Rojuku

定期購読大募集

♪露宿を置いて下さるお店・スペースを探しています。お気持ちのある方はぜひご連絡下さい。まとめ買いの場合は、とてもお安くなります。

♪露宿では広告を募集しています。又、投稿お便り、大歓迎です。下記住所のほか、「ろじゅく編集室専用ファックス」03-3981-6746がございます。「露宿」の注文・原稿送付・広告申込・お便り等、何にでもお気軽にご利用下さい。

# 「ろじゅく」

この雑誌は、路上生活者の方達が読み、書き、表現をする場を提供する為、つくれました。一冊で多く雑誌を印刷し、路上生活者の方に手渡したい思いと、利益が出れば炊き出しのお代にしたい為、心苦しい限りですが、多くの方のご理解とご支援をお願い致します。皆さんのお気持ちに届く、熱く丁寧な雑誌づくりを目指します。

購読費・スポンサー費送り先  
郵便振替口座  
00160-6-190947  
「ろじゅく編集室」

露宿 ROJUKUはココで買えます。

◆**模索舎** 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 ◆**TACO ché** 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 ◆**スペースかぼす** 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 ◆**新宿中央公園ポケットパーク** (毎日曜午後6時から8時まで) TEL 090-3818-3450 ◆**城西教会** 東京都渋谷区西原1-19-3 TEL 03-3466-0445 ◆**山谷労働者福祉会館** 東京都台東区日本堤1-25-11 TEL/FAX 03-3876-7073 ◆**石手寺** 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870 ◆**ぐりん・びいす** 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」第13号 2001年6月25日発行 (隔月刊)

主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13  
TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450 (笠井)

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>  
郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

販売協力・新宿連絡会、露宿ペン俱楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー